

<資料3-1 別冊資料2>

市民、当事者、企業、障がい福祉事業所アンケート

- 市民アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3ページ
- 当事者アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21ページ
- 企業アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47ページ
- 障がい福祉サービス事業所アンケートの結果・・・・ 58ページ

調査の概要

市民、当事者等アンケート調査の実施

(令和7年12月～8年4月 順次実施)

- 【対象】 市内居住の18歳以上の市民・当事者、障がい福祉事業所、市内企業を対象として実施
市民、当事者については対象者群から各760名を無作為抽出
障がい福祉事業所は全事業所を対象として実施
市内企業は、県のメーリングリストに登録のある企業を対象として実施

(基準日：令和7年10月1日)

【回答数】 右表のとおり

区分	対象者	対象者数	送付者数	回答者数	回収率 (%)
市民（18歳以上）		200,880	760	359	47.2
当事者	身体手帳	7,539	420	389	51.2
	療育手帳	2,162	117		
	精神手帳	3,065	168		
	サービスのみ（手帳なし）	1,025	55		
障がい福祉事業所			353事業所	64事業所	18.1
市内企業			750社	88社	11.7

市民アンケートの結果

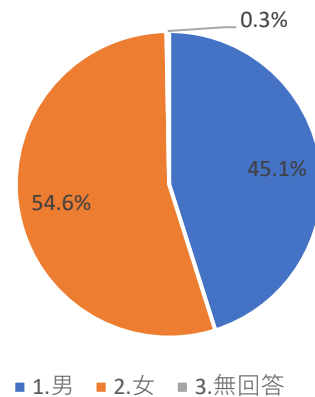
- 1 あなた自身のことについて
- 2 障がいのある方との関わりについて
- 3 障がいのあるこどもの教育について
- 4 障がいのある方の就労について
- 5 障がいに関する意識、障がい者施策について
- 6 手話に関する意識調査

1 あなた自身のことについて

問1 性別（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 男	162	45.1
2. 女	196	54.6
3. 無回答	1	0.3
合計	359	100

※男女比は、全体で1:1となるように送付



問2 年代（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 10代	5	1.4
2. 20代	30	8.4
3. 30代	31	8.6
4. 40代	49	13.6
5. 50代	62	17.3
6. 60代	69	19.2
7. 70代	70	19.5
8. 80代以上	43	12.0
合計	359	100

【参考】送付数内訳

18～40歳：209人

41～64歳：294人

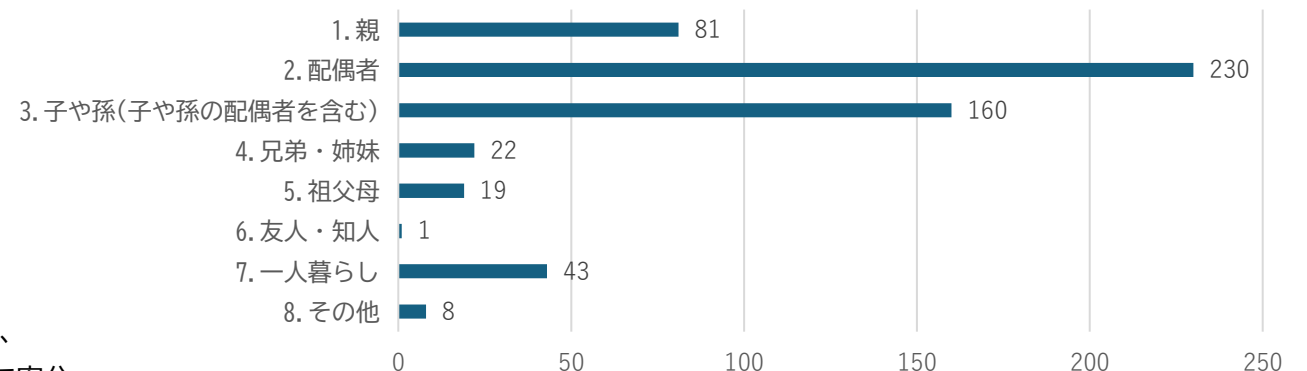
65～79歳：172人

80歳～：86人

※前回策定時と同じ区分（18歳以上）で、
基準日（R7. 10. 1現在）の人口構成比で案分

問3 同居している人（複数選択）

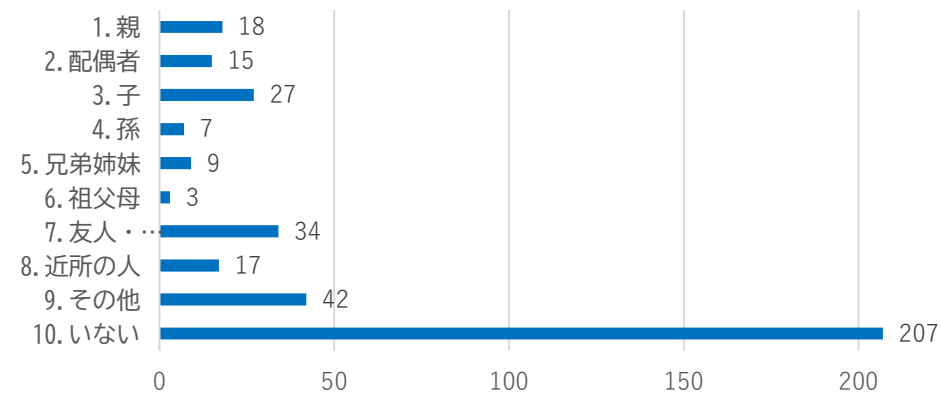
	回答数(人)	割合(%)
1. 親	81	14.4
2. 配偶者	230	40.8
3. 子や孫(子や孫の配偶者を含む)	160	28.4
4. 兄弟・姉妹	22	3.9
5. 祖父母	19	3.4
6. 友人・知人	1	0.2
7. 一人暮らし	43	7.6
8. その他	8	1.4
(その他の主な内容) 甥、子夫婦と二世帯別居、子の配偶者、会社の 同僚、老人ホーム等に入所		
合計	564	100



2 障がいのある人との関わりについて

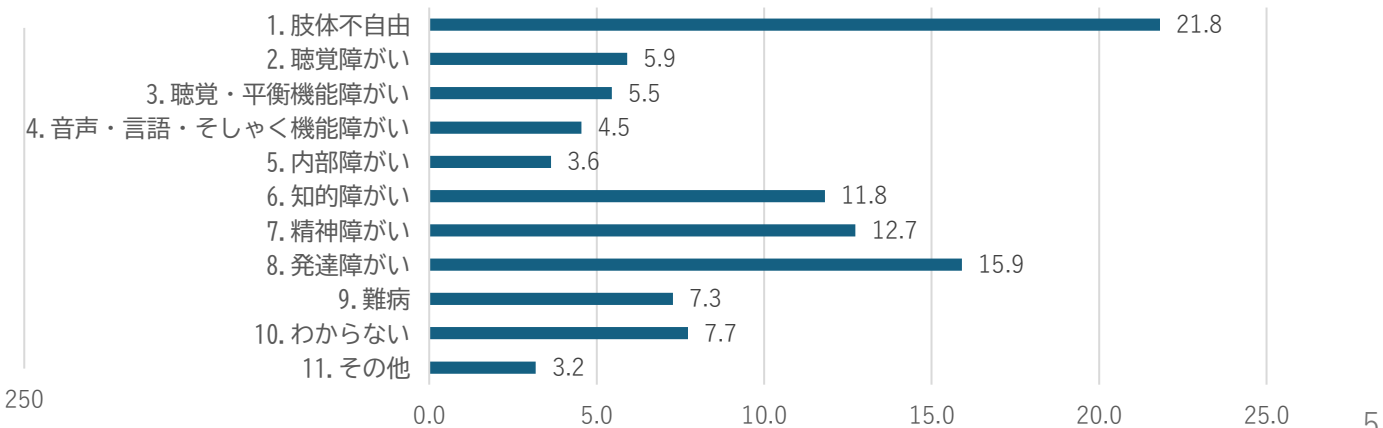
問4 普段交流のある人で障がいのある方（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 親	18	4.7
2. 配偶者	15	4.0
3. 子	27	7.1
4. 孫	7	1.8
5. 兄弟姉妹	9	2.4
6. 祖父母	3	0.8
7. 友人・知人	34	9.0
8. 近所の人	17	4.5
9. その他	42	11.1
10. いない	207	54.6
（その他の主な内容） 甥・姪・従兄弟などの親戚、職場の人（障がい者雇用 の人を含む。）、同じ施設に入所している人		
合計	379	100.0



問5 問4の方の障がいの種類（複数選択）

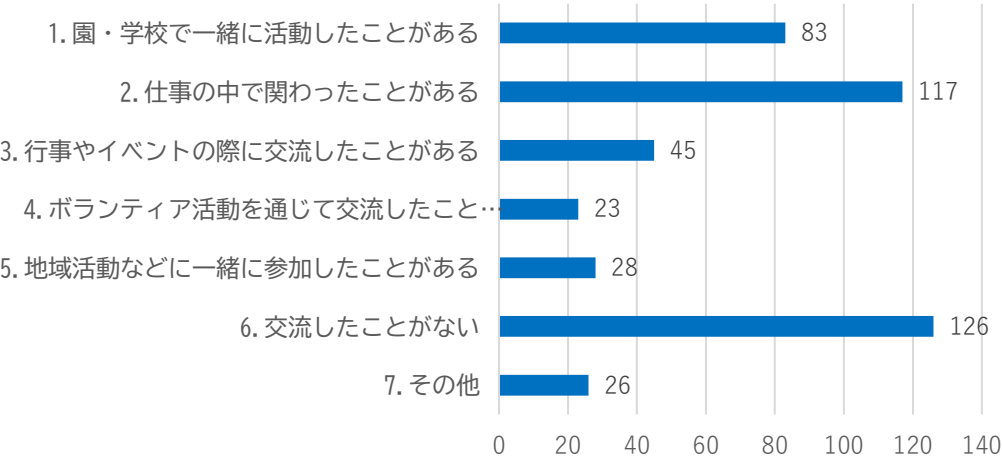
	回答数(人)	割合(%)
1. 肢体不自由	48	21.8
2. 聴覚障がい	13	5.9
3. 聴覚・平衡機能障がい	12	5.5
4. 音声・言語・そしゃく機能障がい	10	4.5
5. 内部障がい	8	3.6
6. 知的障がい	26	11.8
7. 精神障がい	28	12.7
8. 発達障がい	35	15.9
9. 難病	16	7.3
10. わからない	17	7.7
11. その他	7	3.2
（その他の主な内容） 人工透析、脳性麻痺、小頭症、ペースメーカー、認知 症、ダウン症		
合計	220	100.0



2 障がいのある人との関わりについて

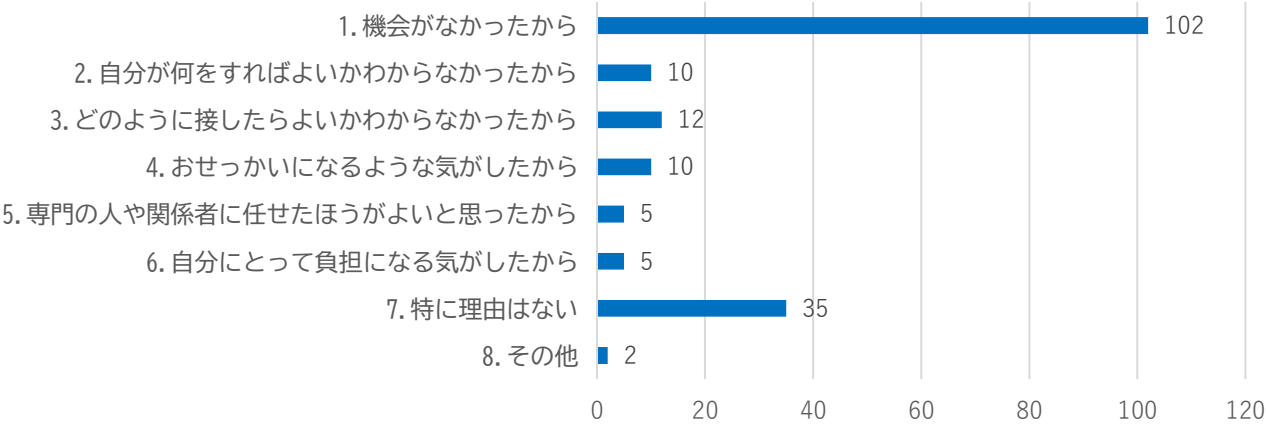
問6 交流の経験はあるか（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 園・学校で一緒に活動したことがある	83	18.5
2. 仕事の中で関わったことがある	117	26.1
3. 行事やイベントの際に交流したことがある	45	10.0
4. ボランティア活動を通じて交流したことがある	23	5.1
5. 地域活動などに一緒に参加したことがある	28	6.3
6. 交流したことがない	126	28.1
7. その他	26	5.8
（その他の主な内容） 友人知人の関係で、自治会活動の中で、家族・親戚関係の中で、近所の人など日常で困っている人を手伝う中で		
合計	448	100.0



問7 交流したことがない理由（複数選択）

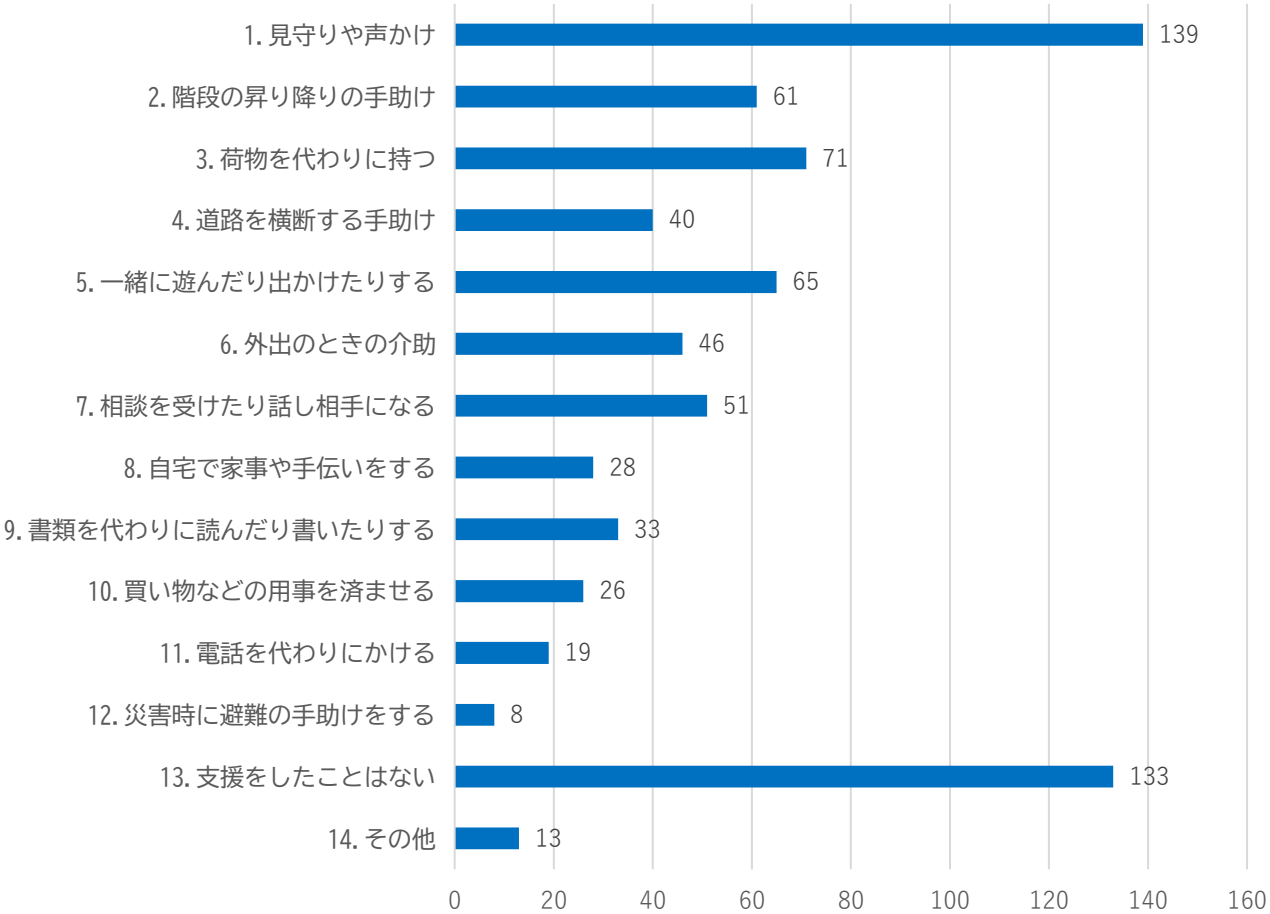
	回答数(人)	割合(%)
1. 機会がなかったから	102	56.4
2. 自分が何をすればよいかわからなかったから	10	5.5
3. どのように接したらよいかわからなかったから	12	6.6
4. おせっかいになるような気がしたから	10	5.5
5. 専門の人や関係者に任せたほうがよいと思ったから	5	2.8
6. 自分にとって負担になる気がしたから	5	2.8
7. 特に理由はない	35	19.3
8. その他	2	1.1
（その他の主な理由） 身内にすでにいて大変さを知っているから（身内以外には交流しようとは思わない）		
合計	181	100.0



2 障がいのある人との関わりについて

問8 次の支援をしたことがあるか（複数選択）

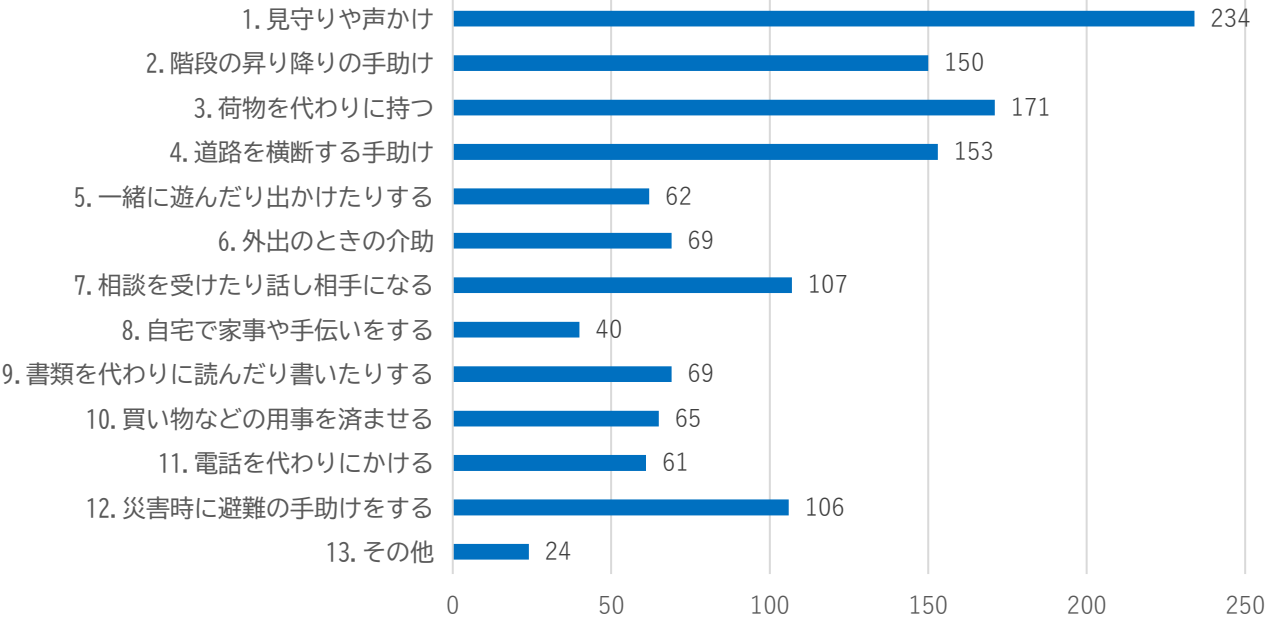
	回答数(人)	割合(%)
1. 見守りや声かけ	139	19.0
2. 階段の昇り降りの手助け	61	8.3
3. 荷物を代わりに持つ	71	9.7
4. 道路を横断する手助け	40	5.5
5. 一緒に遊んだり出かけたりする	65	8.9
6. 外出のときの介助	46	6.3
7. 相談を受けたり話し相手になる	51	7.0
8. 自宅で家事や手伝いをする	28	3.8
9. 書類を代わりに読んだり書いたりする	33	4.5
10. 買い物などの用事を済ませる	26	3.5
11. 電話を代わりにかける	19	2.6
12. 災害時に避難の手助けをする	8	1.1
13. 支援をしたことはない	133	18.1
14. その他	13	1.8
（その他の主な内容） 福井市役所危機管理課の避難支援プラン（自治会連合）での関わり、働きやすいよう環境づくりをした（就労支援）、登り坂で車椅子の介助、電車の座席へ座るための手助け、遠方にいる人の孤立防止支援（電話やSNSでのコミュニケーション）		
合計	733	100.0



2 障がいのある人との関わりについて

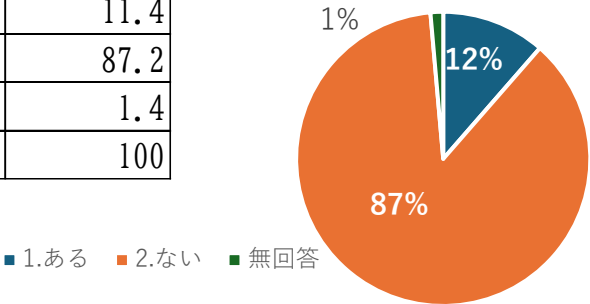
問9 今後どのような支援ができると思うか（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 見守りや声かけ	234	17.8
2. 階段の昇り降りの手助け	150	11.4
3. 荷物を代わりに持つ	171	13.0
4. 道路を横断する手助け	153	11.7
5. 一緒に遊んだり出かけたりする	62	4.7
6. 外出のときの介助	69	5.3
7. 相談を受けたり話し相手になる	107	8.2
8. 自宅で家事や手伝いをする	40	3.1
9. 書類を代わりに読んだり書いたりする	69	5.3
10. 買い物などの用事を済ませる	65	5.0
11. 電話を代わりにかける	61	4.7
12. 災害時に避難の手助けをする	106	8.1
13. その他	24	1.8
（その他の主な内容） 傾聴、身体介護、セルフレジの手助け、ボランティア、職場での支援、 機会があれば何でもする、自分の事で手一杯なのでできない、自分が世 話をされる側なのでできない、障がい者全員が助けを必要としていると は思わない、リハビリをして頑張っている人もいますので手は出さない		
合計	1,311	100.0



問10 ボランティアに参加したことがあるか（1つ選択）

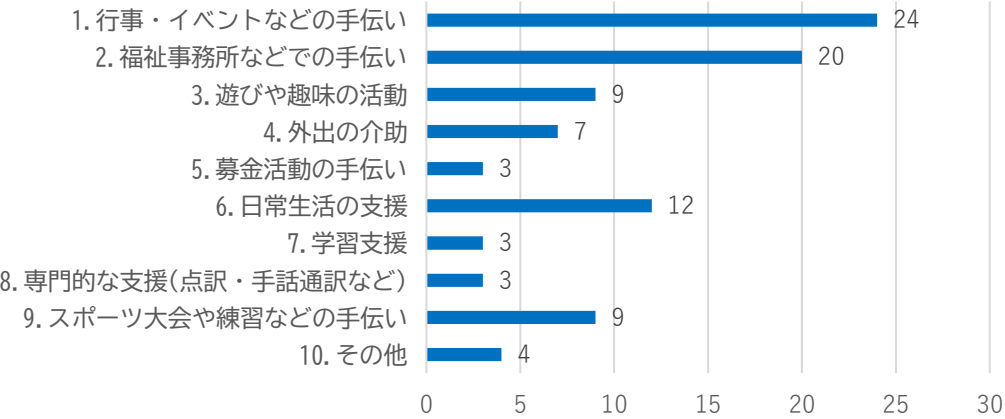
	回答数(人)	割合(%)
1. ある	41	11.4
2. ない	313	87.2
無回答	5	1.4
合計	359	100



2 障がいのある人との関わりについて

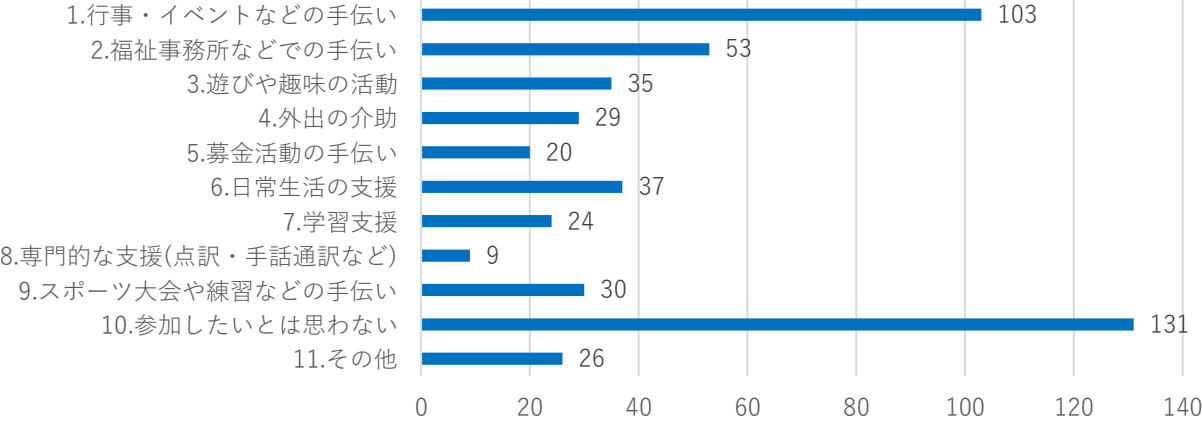
問11 そのボランティアの内容（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 行事・イベントなどの手伝い	24	25.5
2. 福祉事務所などでの手伝い	20	21.3
3. 遊びや趣味の活動	9	9.6
4. 外出の介助	7	7.4
5. 募金活動の手伝い	3	3.2
6. 日常生活の支援	12	12.8
7. 学習支援	3	3.2
8. 専門的な支援(点訳・手話通訳など)	3	3.2
9. スポーツ大会や練習などの手伝い	9	9.6
10. その他	4	4.3
(その他の主な内容) 仕事の中で関わった、視覚障がい者への音読		
合計	94	100



問12 今度できると思うボランティアの内容（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 行事・イベントなどの手伝い	103	20.7
2. 福祉事務所などでの手伝い	53	10.7
3. 遊びや趣味の活動	35	7.0
4. 外出の介助	29	5.8
5. 募金活動の手伝い	20	4.0
6. 日常生活の支援	37	7.4
7. 学習支援	24	4.8
8. 専門的な支援(点訳・手話通訳など)	9	1.8
9. スポーツ大会や練習などの手伝い	30	6.0
10. 参加したいとは思わない	131	26.4
11. その他	26	5.2
(その他の主な内容) 高齢なので組織だった活動には参加できないが行きがかりの事態には協力したい、何か役に立ちたいと思いはあるが年齢や体力的に気持ちが続いていけない、諸事情によりできない(高齢、病気、忙しい)、役に立てるか不安		
合計	497	100

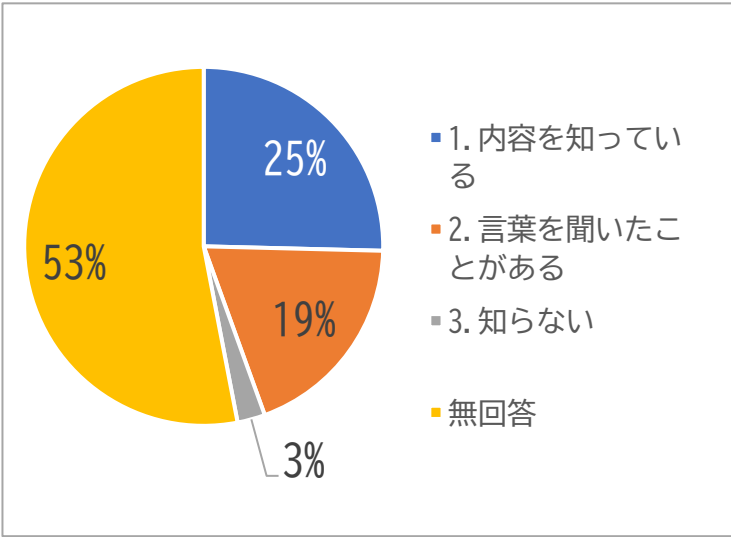


3 障がいのある子どもの教育について

問13 次の言葉を知っているか（1つ選択）

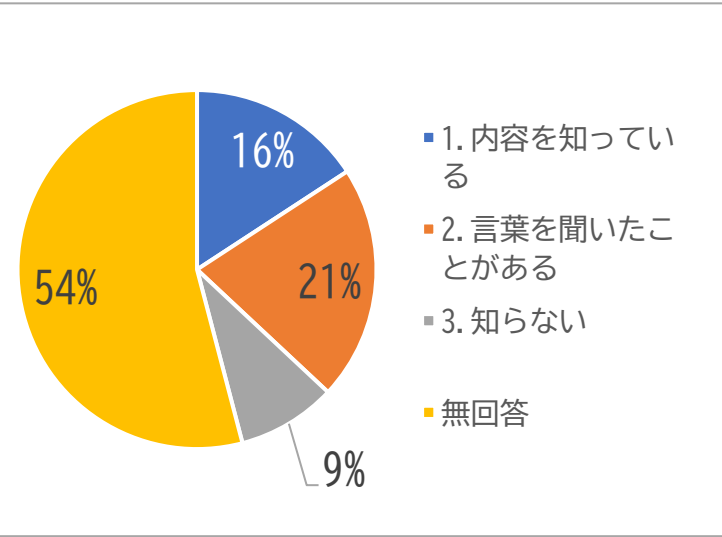
発達障がい

	合計(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	193	25.4
2. 言葉を聞いたことがある	145	19.1
3. 知らない	19	2.5
無回答	403	53.0
合計	760	100.0



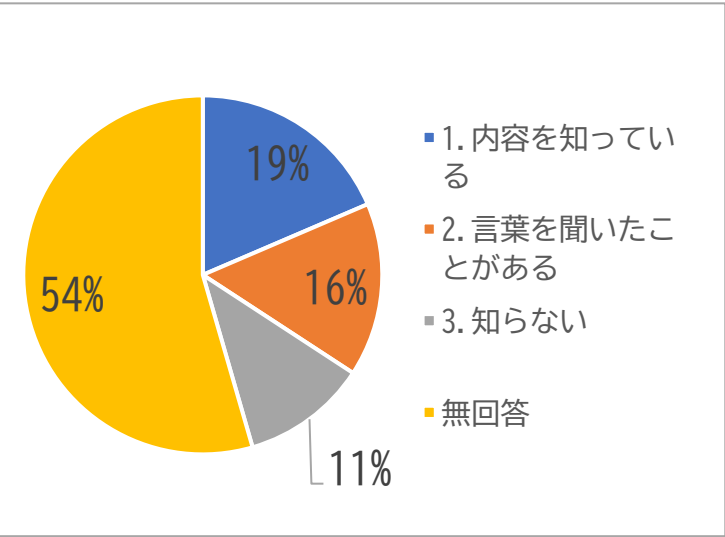
ASD

	合計(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	120	15.8
2. 言葉を聞いたことがある	161	21.2
3. 知らない	68	8.9
無回答	411	54.1
合計	760	100.0



ADHD

	合計(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	141	18.6
2. 言葉を聞いたことがある	119	15.7
3. 知らない	86	11.3
無回答	414	54.5
合計	760	100.0

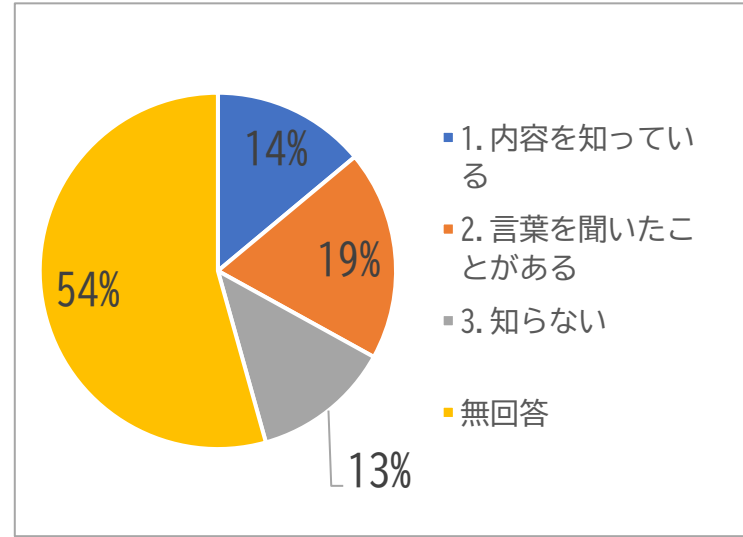


3 障がいのある子どもの教育について

問13 次の言葉を知っているか（1つ選択）

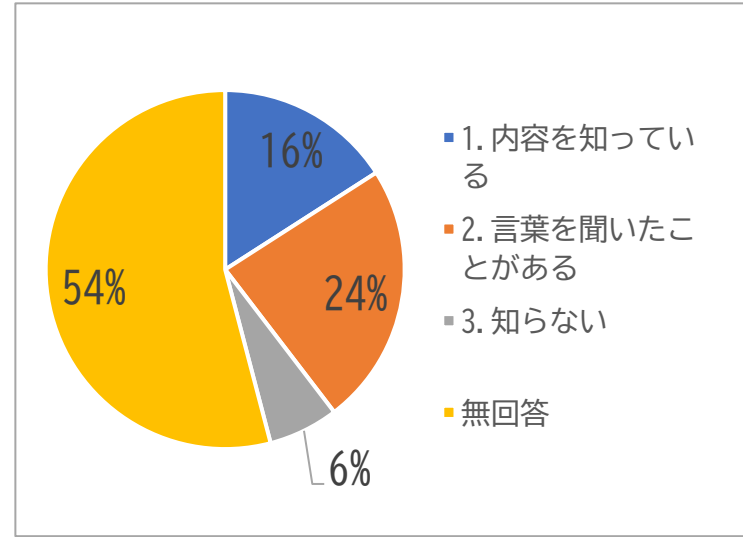
LD

	合計(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	106	13.9
2. 言葉を聞いたことがある	145	19.1
3. 知らない	96	12.6
無回答	413	54.3
合計	760	100.0



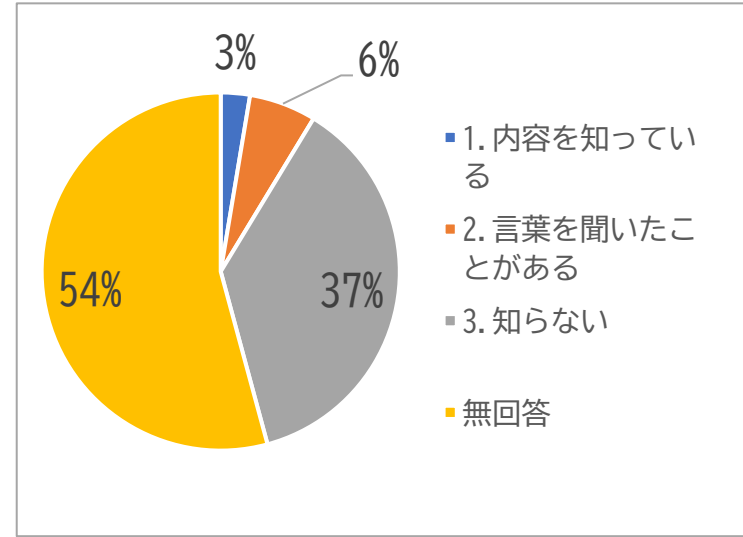
特別支援教育

	合計(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	121	15.9
2. 言葉を聞いたことがある	180	23.7
3. 知らない	48	6.3
無回答	411	54.1
合計	760	100.0



子育てファイルふくいっ子

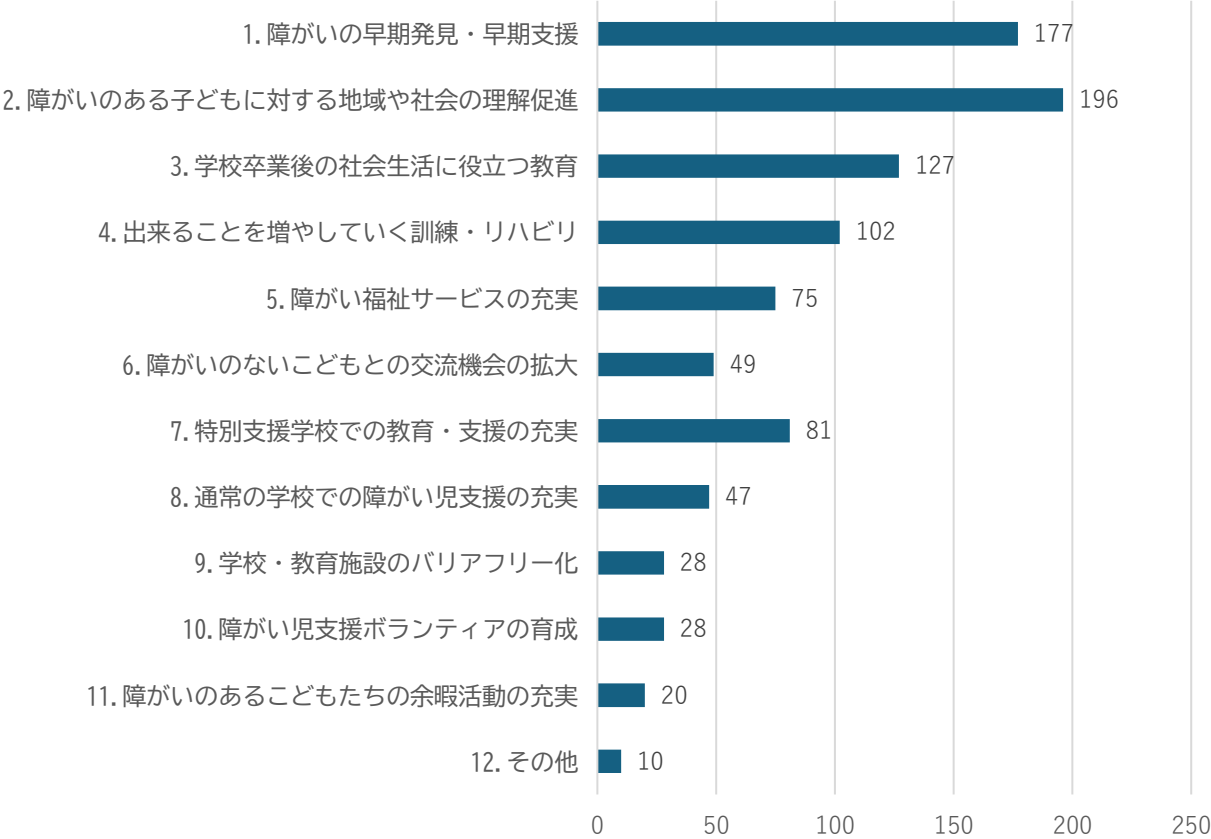
	合計(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	20	2.6
2. 言葉を聞いたことがある	46	6.1
3. 知らない	282	37.1
無回答	412	54.2
合計	760	100.0



3 障がいのある子どもの教育について

問14 障がいのあるこどもの健全な育成のため、今後どのような取組が必要だと思うか（複数選択）

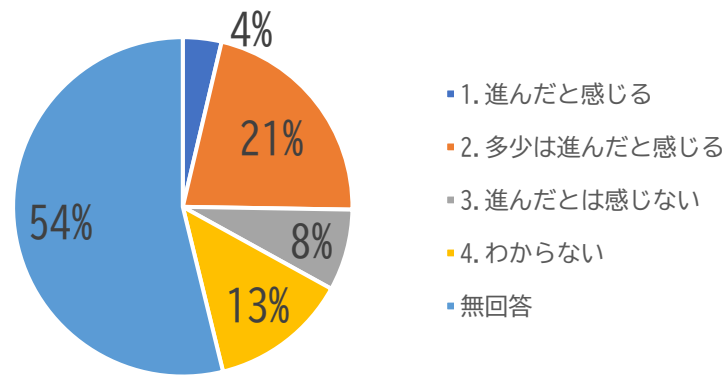
	回答数(人)	割合(%)
1. 障がいの早期発見・早期支援	177	18.8
2. 障がいのある子どもに対する地域や社会の理解促進	196	20.9
3. 学校卒業後の社会生活に役立つ教育	127	13.5
4. 出来ることを増やしていく訓練・リハビリ	102	10.9
5. 障がい福祉サービスの充実	75	8.0
6. 障がいのないこどもとの交流機会の拡大	49	5.2
7. 特別支援学校での教育・支援の充実	81	8.6
8. 通常の学校での障がい児支援の充実	47	5.0
9. 学校・教育施設のバリアフリー化	28	3.0
10. 障がい児支援ボランティアの育成	28	3.0
11. 障がいのあるこどもたちの余暇活動の充実	20	2.1
12. その他	10	1.1
(その他の内容)		
・上記項目全て必要、大切・現在接する機会がないのでわからない・障がいの正しい理解をすすめる・障がいを障がいだとしない・分子栄養学の視点から対応し、障害ではないことを、社会的に解明する・教育者関係者への支援		
合計	940	100



4 障がいのある方の就労について

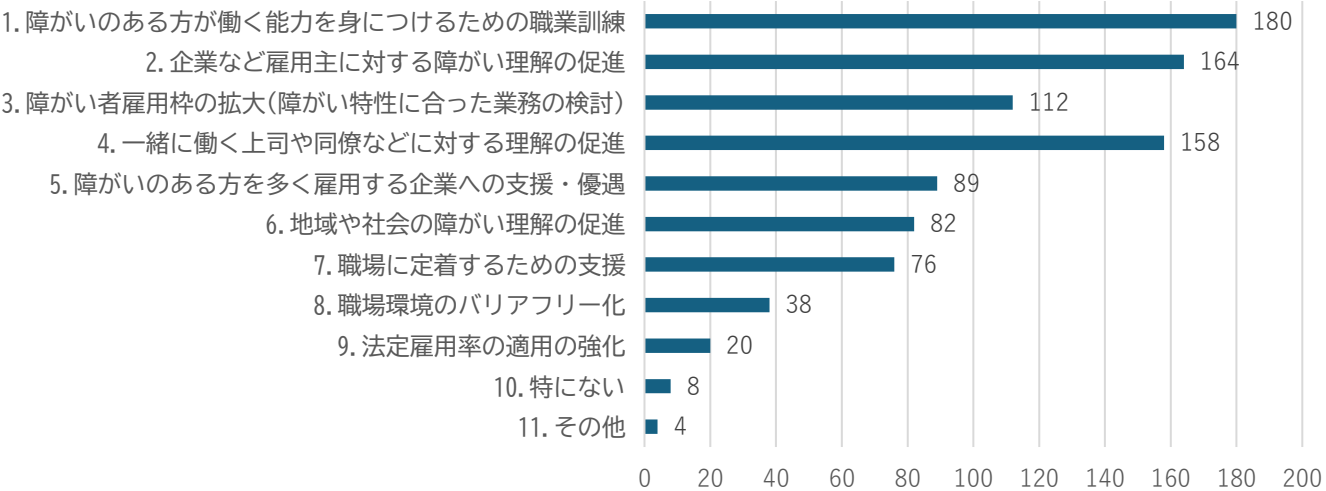
問15 6年前と比べて、障がいのある方の就労に対する社会全体や身近な地域での理解は進んだか（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 進んだと感じる	28	3.7
2. 多少は進んだと感じる	164	21.6
3. 進んだとは感じない	59	7.8
4. わからない	100	13.2
無回答	409	53.8
合計	760	100



問16 より多くの障がいのある方が企業などで働くために、今後どのような取組が必要か（複数選択）

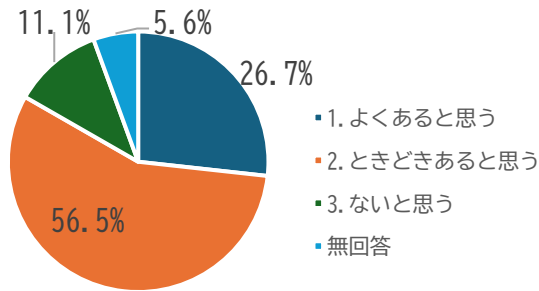
	回答数(人)	割合(%)
1. 障がいのある方が働く能力を身につけるための職業訓練	180	19.3
2. 企業など雇用主に対する障がい理解の促進	164	17.6
3. 障がい者雇用枠の拡大(障がい特性に合った業務の検討)	112	12.0
4. 一緒に働く上司や同僚などに対する理解の促進	158	17.0
5. 障がいのある方を多く雇用する企業への支援・優遇	89	9.6
6. 地域や社会の障がい理解の促進	82	8.8
7. 職場に定着するための支援	76	8.2
8. 職場環境のバリアフリー化	38	4.1
9. 法定雇用率の適用の強化	20	2.1
10. 特にない	8	0.9
11. その他	4	0.4
(その他の内容) ・一緒に働く人の支援(金銭、精神面の援助)・現状の周知(どのような障がいなのか理解と対策を共有する)・受け入れる企業の問題		
合計	931	100



5 障がいに関する意識、障がい者施策について

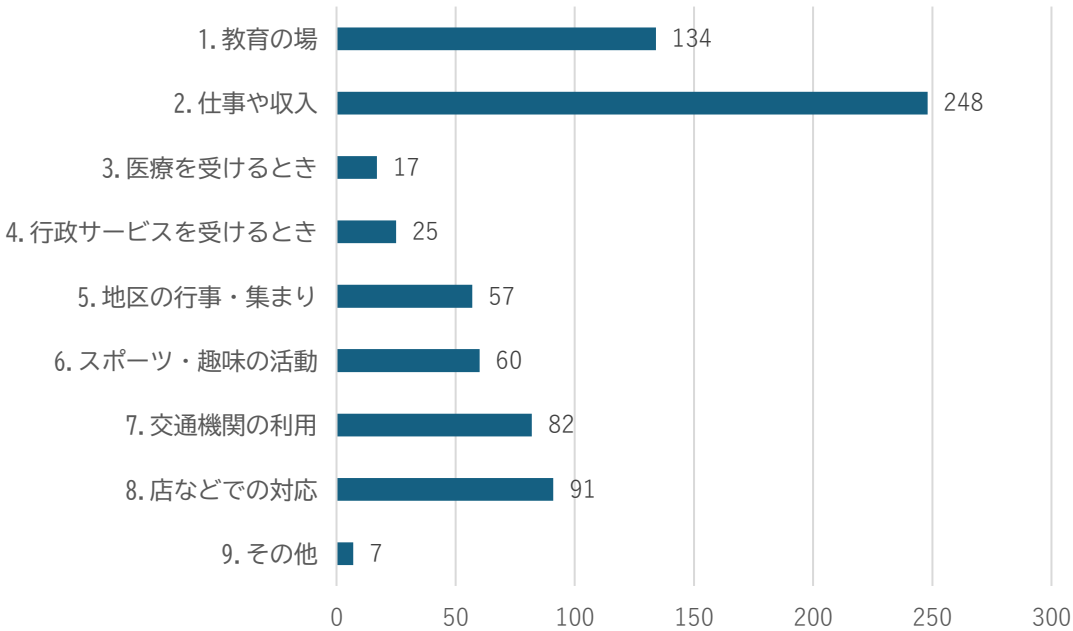
問17 障がいを理由とした差別はあると思うか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. よくあると思う	96	26.7
2. ときどきあると思う	203	56.5
3. ないと思う	40	11.1
無回答	20	5.6
合計	359	100.0



問18 差別があると感じるとき（複数選択）

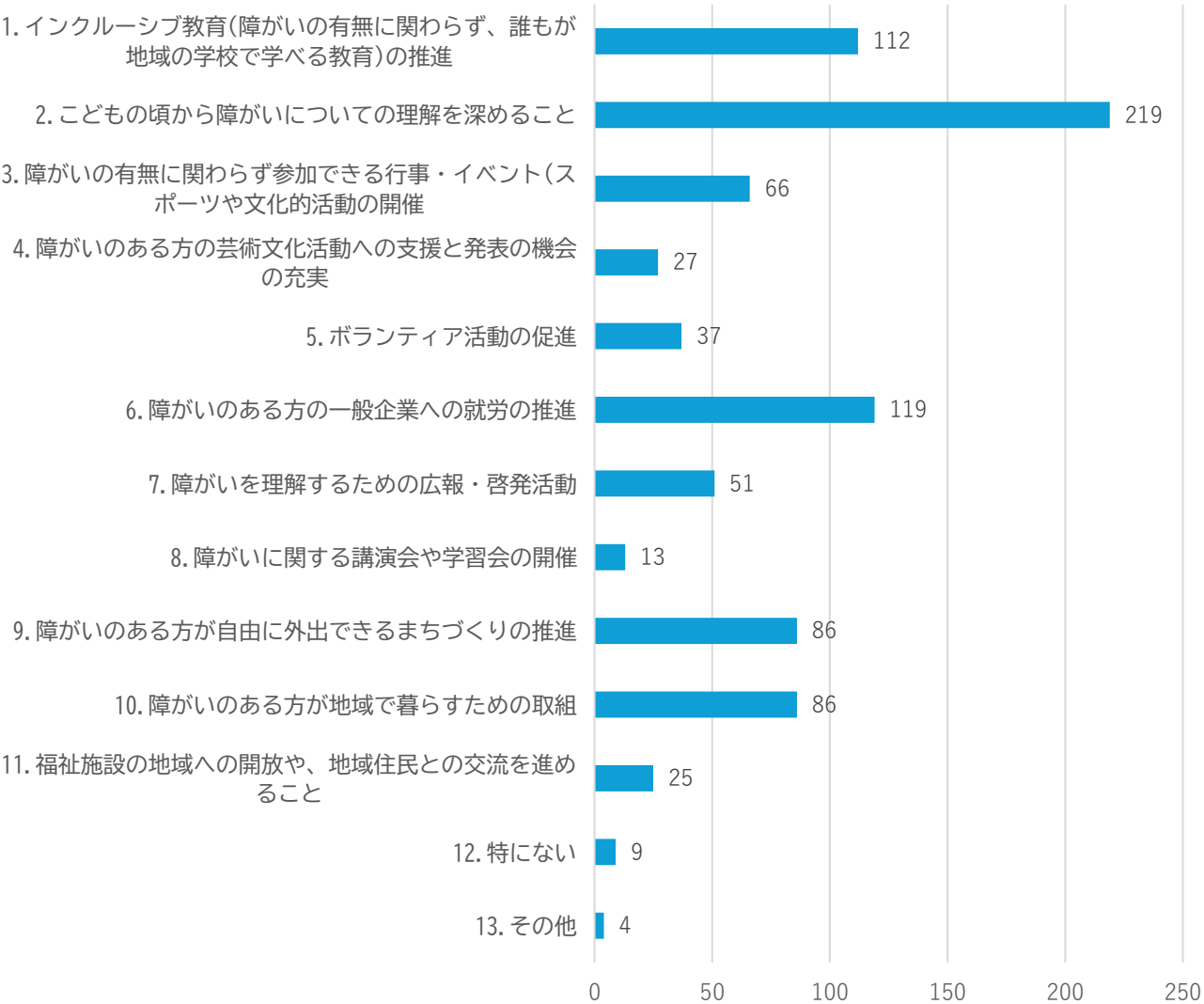
	回答数(人)	割合(%)
1. 教育の場	134	18.6
2. 仕事や収入	248	34.4
3. 医療を受けるとき	17	2.4
4. 行政サービスを受けるとき	25	3.5
5. 地区の行事・集まり	57	7.9
6. スポーツ・趣味の活動	60	8.3
7. 交通機関の利用	82	11.4
8. 店などでの対応	91	12.6
9. その他	7	1.0
(その他の内容) ・2→差がある、7→車椅子準備、列車の隙間防止に板を運ぶ等少し良くなっている・SNS・その人のために合わせた状況を提供できていない・社会の中で人々の視線で感じる・障がいによって出来る事出来ない事があり、今は差別されることは少ないと思う・かわる人の意識・障害者が安心していけるスポーツジム・人との会話の中で		
合計	721	100



5 障がいに関する意識、障がい者施策について

問19共に生きるために今後どのような取組が必要か（3つまで選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. インクルーシブ教育(障がいの有無に関わらず、誰もが地域の学校で学べる教育)の推進	112	13.1
2. こどもの頃から障がいについての理解を深めること	219	25.6
3. 障がいの有無に関わらず参加できる行事・イベント(スポーツや文化的活動の開催	66	7.7
4. 障がいのある方の芸術文化活動への支援と発表の機会の充実	27	3.2
5. ボランティア活動の促進	37	4.3
6. 障がいのある方の一般企業への就労の推進	119	13.9
7. 障がいを理解するための広報・啓発活動	51	6.0
8. 障がいに関する講演会や学習会の開催	13	1.5
9. 障がいのある方が自由に外出できるまちづくりの推進	86	10.1
10. 障がいのある方が地域で暮らすための取組	86	10.1
11. 福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流を進めること	25	2.9
12. 特にない	9	1.1
13. その他	4	0.5
(その他の内容) ・受け入れた側のフォローも(金銭的なものではなく)検討してほしい・障害に応じて取り組む・何が不足か、障がい者との接触がないから取り組みはわからない・給料の差別をしない・障害の種類によって適切な教育と、見守りと、差別ではない必要な別け隔て。できることと、できないことそれぞれの配慮		
合計	854	100

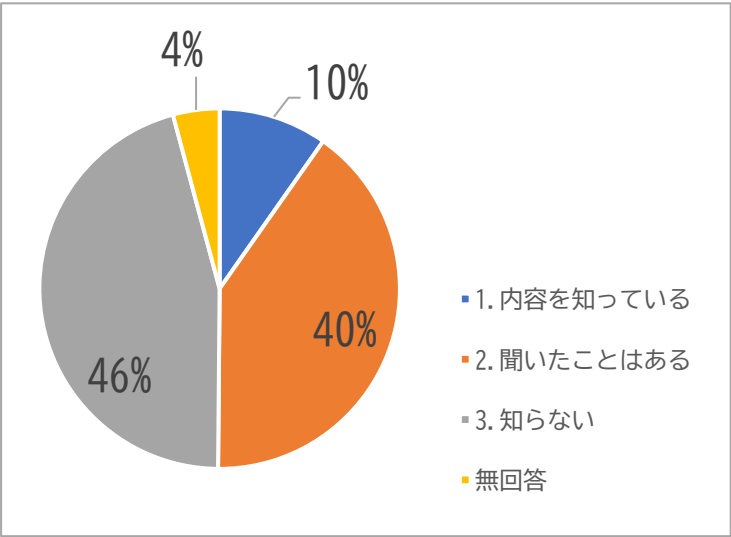


5 障がいに関する意識、障がい者施策について

次の言葉を知っているか（1つ選択）

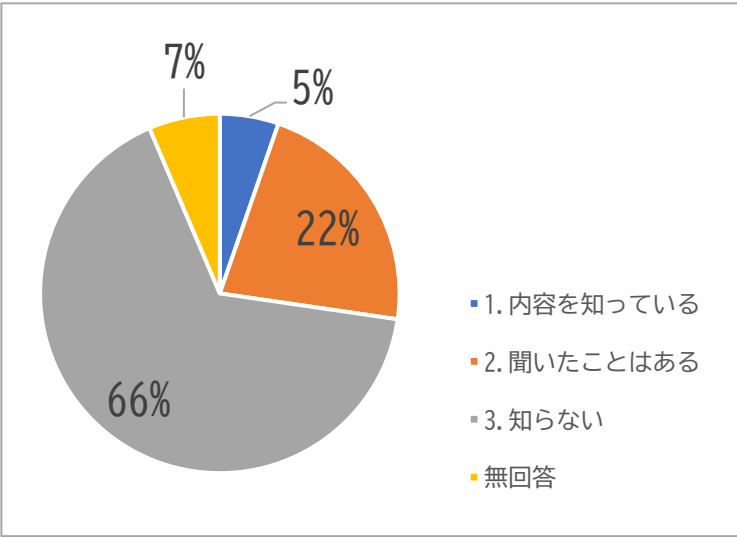
問20 障害者虐待防止法

	回答数(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	35	9.7
2. 聞いたことはある	145	40.4
3. 知らない	164	45.7
無回答	15	4.2
	359	100



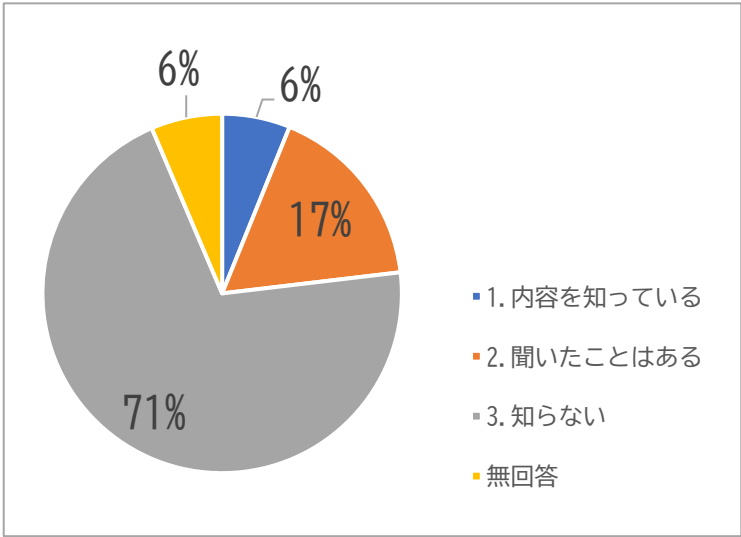
問21 障害者差別解消法

	回答数(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	19	5.3
2. 聞いたことはある	79	22.0
3. 知らない	238	66.3
無回答	23	6.4
	359	100



問22 合理的配慮の提供

	回答数(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	22	6.1
2. 聞いたことはある	61	17.0
3. 知らない	253	70.5
無回答	23	6.4
合計	359	100

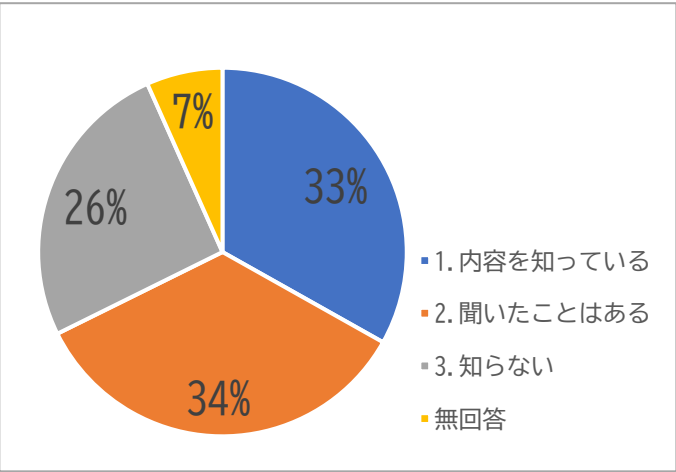


5 障がいに関する意識、障がい者施策について

次の言葉を知っているか（1つ選択）

問23 成年後見制度

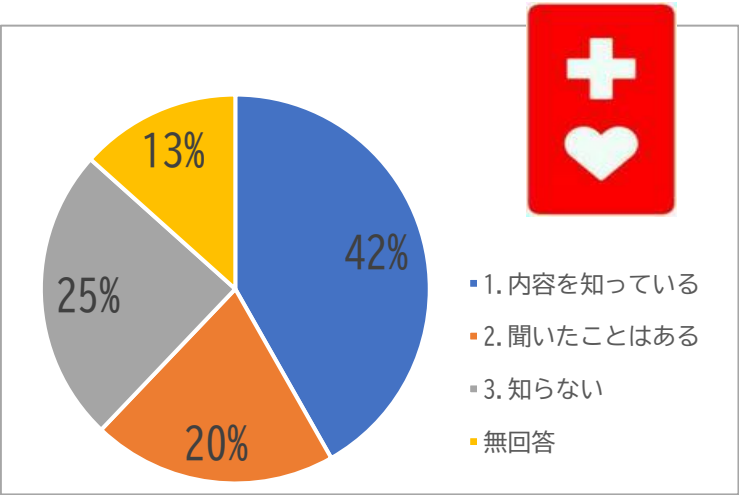
	回答数(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	119	33.1
2. 聞いたことはある	124	34.5
3. 知らない	92	25.6
無回答	24	6.7
	359	100



次のマークを知っているか（1つ選択）

問24 ヘルプマーク

	回答数(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	150	41.8
2. 聞いたことはある	73	20.3
3. 知らない	88	24.5
無回答	48	13.4
	359	100



問25 聴覚障がい者標識

	回答数(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	83	23.1
2. 聞いたことはある	91	25.3
3. 知らない	136	37.9
無回答	49	13.6
	359	100

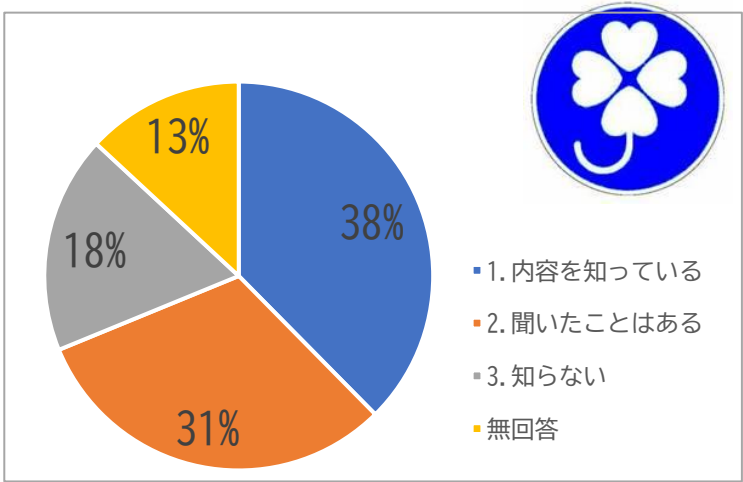


5 障がいに関する意識、障がい者施策について

次のマークを知っているか（1つ選択）

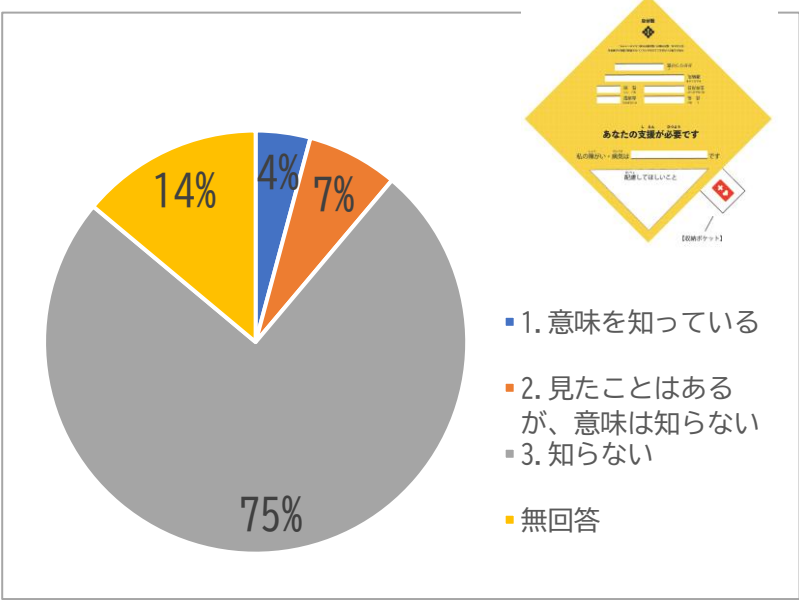
問26 身体障がい者標識

	回答数(人)	割合(%)
1. 内容を知っている	135	37.6
2. 聞いたことはある	112	31.2
3. 知らない	65	18.1
無回答	47	13.1
	359	100



問25 防災スカーフを知っているか

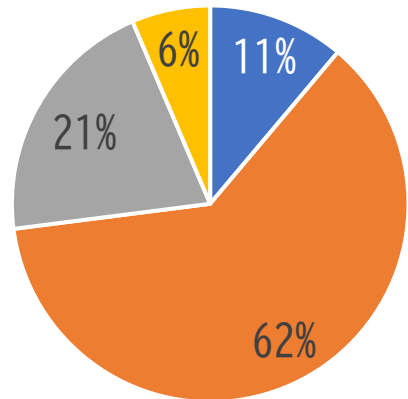
	回答数(人)	割合(%)
1. 意味を知っている	15	4.2
2. 見たことはあるが、意味は知らない	25	7.0
3. 知らない	269	74.9
無回答	50	13.9
	359	100



6 手話に関する意識調査

問27 手話を見たことがあるか（1つ選択）

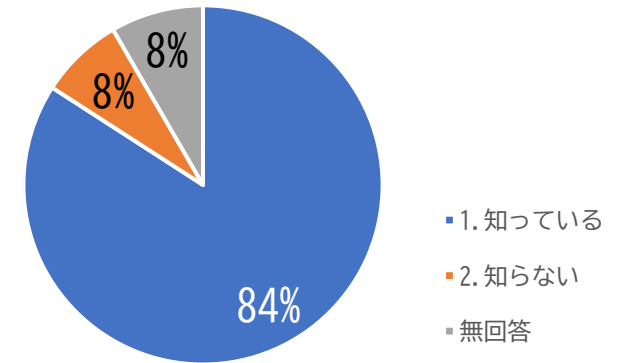
	回答数（人）	割合（％）
1. 見たことがあり、自分でも使ったことがある	40	11.1
2. 見たことがある	222	61.8
3. 見たことも、使ったこともない	74	20.6
無回答	23	6.4
合計	359	100



- 1. 見たことがあり、自分でも使ったことがある
- 2. 見たことがある
- 3. 見たことも、使ったこともない
- 無回答

問28 手話が言語のひとつであることを知っているか（1つ選択）

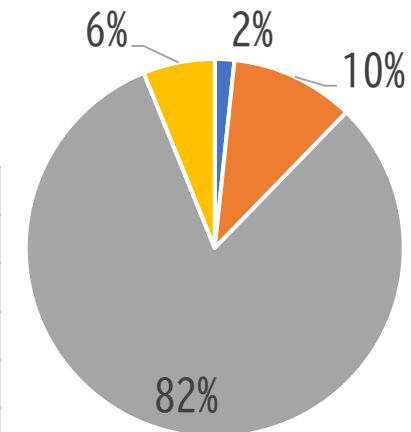
	回答数（人）	割合（％）
1. 知っている	302	84.1
2. 知らない	27	7.5
無回答	30	8.4
合計	359	100



- 1. 知っている
- 2. 知らない
- 無回答

問29 「福井市手話言語及び障がい者コミュニケーション条例」を知っているか（1つ選択）

	回答数（人）	割合（％）
1. 内容を知っている	6	1.7
2. 聞いたことはある	38	10.6
3. 知らない	293	81.6
無回答	22	6.1
合計	359	100

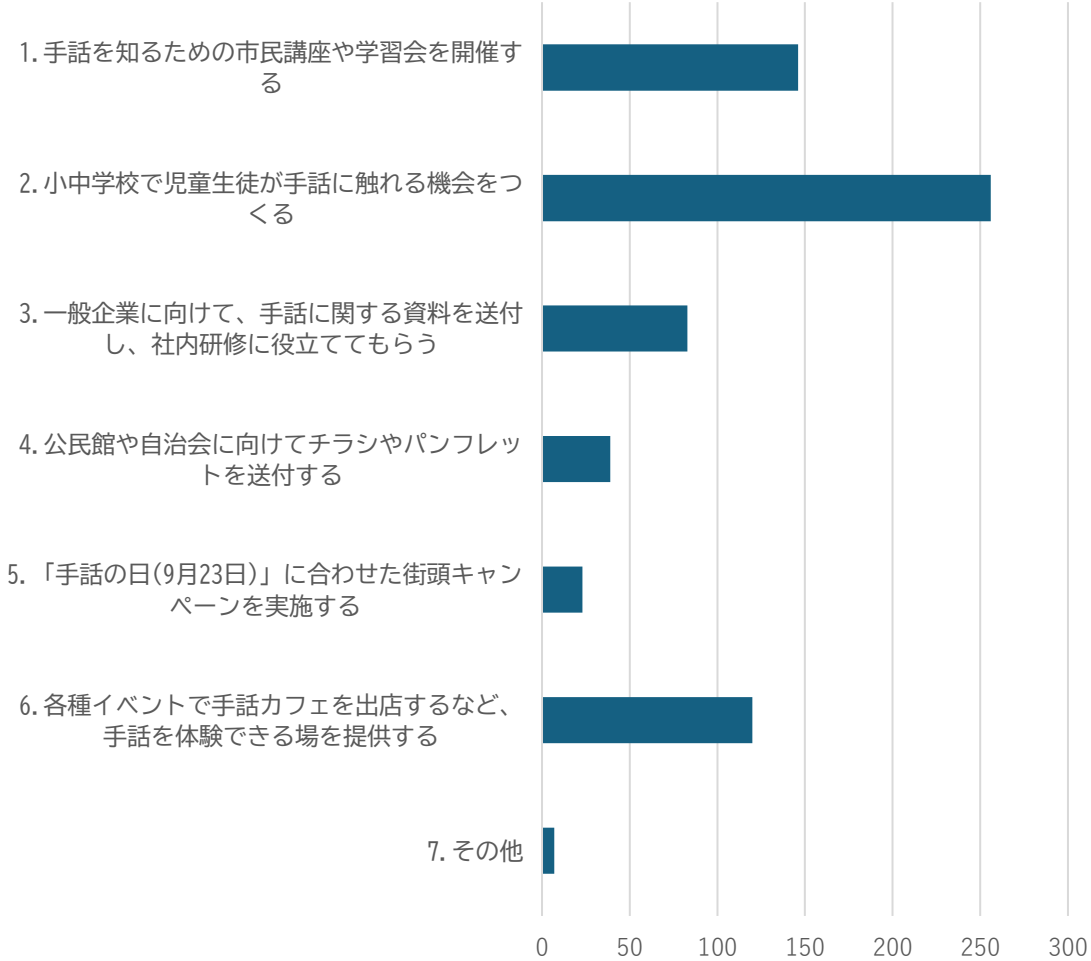


- 1. 内容を知っている
- 2. 聞いたことはある
- 3. 知らない
- 無回答

6 手話に関する意識調査

問30 手話についての理解を広めていくために、どんな
取組が効果的か（3つまで選択）

	回答数（人）	割合（％）
1. 手話を知るための市民講座や学習会を開催する	146	21.7
2. 小中学校で児童生徒が手話に触れる機会をつくる	256	38.0
3. 一般企業に向けて、手話に関する資料を送付し、社内研修に役立ててもらう	83	12.3
4. 公民館や自治会に向けてチラシやパンフレットを送付する	39	5.8
5. 「手話の日(9月23日)」に合わせた街頭キャンペーンを実施する	23	3.4
6. 各種イベントで手話カフェを出店するなど、手話を体験できる場を提供する	120	17.8
7. その他	7	1.0
（その他の内容） ・チラシ、パンフレット送付では手薄い・小、中、高に手話の授業を定期的にする・小、中では大人になってから忘れてしまうので、高校でも授業に入れたら良いと思います・今後も手話だけに頼らずITの活用を進めるべき・スーパーや人の集まる場所に簡単な手話パネルを掲示してもらう。将来AIを使ったモニターで会話ができると便利・わからない・手話でゲームや遊びを推奨する(体育館などで)・各種団体でのセミナー等に手話講師を派遣する・手話をいつときのイベントでなく日常的にそこかしこで触れられると自然に覚えたり理解が広まって行くのではないかと思います。（TVやスーパーなど）		
合計	674	100



当事者アンケートの結果

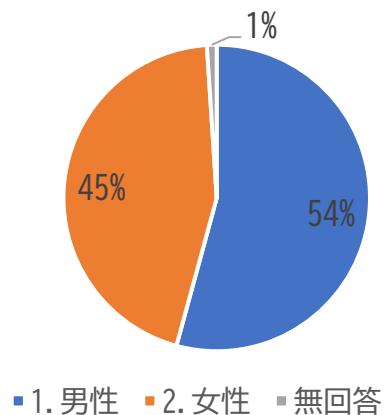
- | | | | |
|---|---------------|----|----------------------|
| 1 | あなた自身のことについて | 8 | 教育・就学について |
| 2 | 日常生活について | 9 | 就労について |
| 3 | 障がい福祉サービスについて | 10 | 権利擁護について |
| 4 | 介助の状況について | 11 | 災害時の避難・対策について |
| 5 | 生活環境について | 12 | 情報・コミュニケーション |
| 6 | 社会参加・地域生活について | 13 | 今後の障がい児者関連事業の重要度について |
| 7 | 保健・医療について | | |

1 あなた自身のことについて

問1 性別（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 男性	211	54.2
2. 女性	174	44.7
無回答	4	1.0
合計	389	100

※男女比は1:1となるように送付



問2 年代（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 10歳未満	19	4.9
2. 10代	29	7.5
3. 20代	24	6.2
4. 30代	28	7.2
5. 40代	42	10.8
6. 50代	40	10.3
7. 60代	65	16.7
8. 70代	77	19.8
9. 80代以上	62	15.9
無回答	3	0.8
合計	389	100

【参考】送付数内訳

0～17歳：74人

18～40歳：130人

41～64歳：201人

65～79歳：206人

80歳～：149人

※前回策定時と同じ区分（0歳以上）で、

基準日（R7. 10. 1現在）の人口構成比で案分して調整

問3 持っている手帳の種類と内容（複数選択）

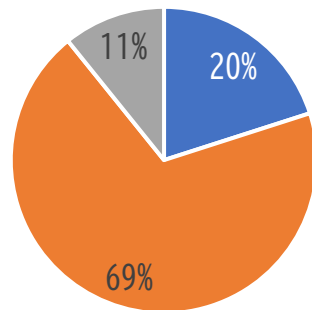
		回答数(人)	割合(%)
1. 身体	1. 1級	69	26.8
	2. 2級	51	19.8
	3. 3級	55	21.4
	4. 4級	50	19.5
	5. 5級	15	5.8
	6. 6級	17	6.6
合計		257	100
2. 療育	1. A1	20	40.8
	2. A2	7	14.3
	3. B1	8	16.3
	4. B2	14	28.6
合計		49	100
3. 精神	1. 1級	2	3.1
	2. 2級	39	60.0
	3. 3級	24	36.9
合計		65	100

1 あなた自身のことについて

問4 発達障がいの診断を受けているか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. はい(疑いも含む)	78	20.1
2. いいえ	269	69.2
無回答	42	10.8
合計	389	100

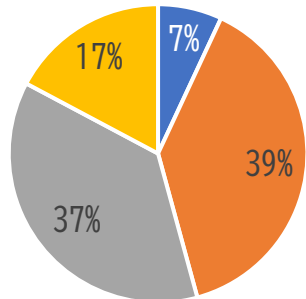
- 1. はい(疑いも含む)
- 2. いいえ
- 無回答



問5 障害支援区分の認定（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 受けている	27	6.9
2. 受けていない	151	38.8
3. わからない	144	37.0
無回答	67	17.2
合計	389	100

- 1. 受けている
- 2. 受けていない
- 3. わからない
- 無回答



2 日常生活について

問6 どこで暮らしているか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 持ち家(家族・親戚の持家も含む)	268	68.9
2. 公営住宅(市営・県営)	15	3.9
3. 民間のアパート、借家	51	13.1
4. 入所施設	24	6.2
5. グループホーム	12	3.1
6. その他	8	2.1
無回答	11	2.83
(その他の内容) ・病院・軽費老人ホーム・今は入院中・ショートステイ で何年も生活・高齢者サービス付住宅		
合計	389	100

問7 一緒に暮らしている人（複数選択）

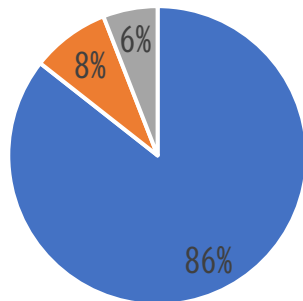
	回答数(人)	割合(%)
1. 親	126	23.3
2. 配偶者	143	26.4
3. 兄弟・姉妹	67	12.4
4. 子や孫(その配偶者を含む)	100	18.5
5. 祖父母	15	2.8
6. 友達・仲間など	7	1.3
7. 一人で暮らしている	61	11.3
8. その他	22	4.1
(その他の内容) ・ネコ・甥の家族・グループホームの人・若越ひかりの 村・施設・福井病院入院中・家での同居ではない・施設 利用者・病院・昼は店をしているので娘達がくる・支援 施設利用者・老人ホーム		
合計	541	100

2 日常生活について

問8 今の暮らしを続けたいか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 続けたい	333	85.6
2. 暮らしを変えたい	33	8.5
無回答	23	5.9
合計	389	100

- 1. 続けたい
- 2. 暮らしを変えたい
- 無回答



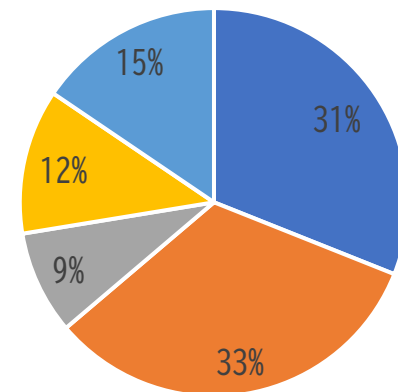
問10 （「1人で暮らしている」「1人で暮らしたい」場合に）
必要な支援は何か（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 地域住民の理解と協力	32	24.1
2. 健康管理のための支援	29	21.8
3. 「一人暮らし」を始めるまでの支援	11	8.3
4. 「一人暮らし」を続けるための支援	46	34.6
5. 支援は必要ない	12	9.0
6. その他	3	2.3
（その他の内容） ・ヘルパーさん頼んで来てもらってます。・ほくネットに行きたい・施設なので職員さんたちから支援を受けている		
合計	133	100

問9 （問8で「変えたい」場合に）どのような暮らしをしたいか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 一人で暮らしたい	18	31.0
2. 家族と一緒に暮らしたい	19	32.8
3. 福祉施設(障がい者施設、高齢者施設など)で暮らしたい	5	8.6
4. 仲間と地域で共同生活がしたい(グループホームなど)	7	12.1
5. その他	9	15.5
（その他の内容） ・県外で暮らしたい・家賃の安い公営住宅に移りたい。市営住宅課に相談に行ったら一度市営住宅に入居したら次の市営住宅には入れないと言われ困っている。・核家族で暮らしたい・病院・自分の希望条件が叶えられるならその形の暮らし方・交通の便がよい所		
合計	58	100

- 1. 一人で暮らしたい
- 2. 家族と一緒に暮らしたい
- 3. 福祉施設(障がい者施設、高齢者施設など)で暮らしたい
- 4. 仲間と地域で共同生活がしたい(グループホームなど)
- 5. その他

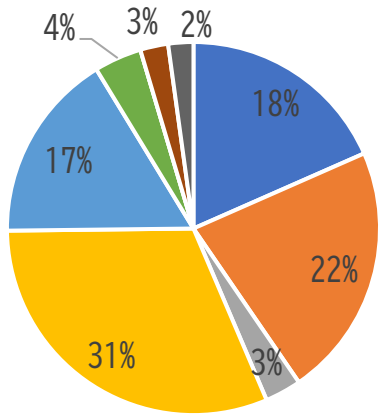


2 日常生活について

問11 主な収入源（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 自分が働いた収入	76	18.4
2. 自分の障がい年金・手当	91	22.0
3. 自分の預貯金、財産収入	13	3.1
4. 公的年金(国民年金や厚生年金)	129	31.2
5. 同居の家族が働いた収入	68	16.5
6. 同居の家族の年金・手当	17	4.1
7. 別居の家族からの援助・仕送り	0	0.0
8. 生活保護	10	2.4
9. その他	9	2.2
(その他の内容) ・自営業・遺族年金・何でも・就労支援・同居家族の収入		
合計	413	100

- 1. 自分が働いた収入
- 2. 自分の障がい年金・手当
- 3. 自分の預貯金、財産収入
- 4. 公的年金(国民年金や厚生年金)
- 5. 同居の家族が働いた収入
- 6. 同居の家族の年金・手当
- 7. 別居の家族からの援助・仕送り
- 8. 生活保護
- 9. その他



問12 困っていることや不安に思っていること（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)	※
1 入園・園選び	1	0.1	
2 進学・学校選び	17	1.4	
3 園・学校での生活面(学習含む)	20	1.6	
4 友達作り	40	3.3	
5 恋愛・結婚	26	2.1	
6 就職や職場選び	37	3.0	
7 職場での人間関係	27	2.2	
8 家庭問題	35	2.8	
9 家事・家族の世話	48	3.9	
10 自分の老後	162	13.2	
11 親・家族の老後	76	6.2	
12 買い物や役所・銀行などの手続き	53	4.3	
13 自由な外出や街歩き	70	5.7	
14 余暇(趣味、旅行など)の過ごし方	44	3.6	
15 健康や身体のこと	184	15.0	
16 障がい福祉サービスの利用	51	4.1	
17 近所との付き合い	28	2.3	
18 住まいの確保	20	1.6	
19 緊急対応(自分や家族の急病など)	86	7.0	
20 災害時の安全確保	82	6.7	
21 金銭管理	48	3.9	
22 特にない	65	5.3	
23 その他	9	0.7	
(その他の主な内容) ・今後のことはわからない・手すりなど住環境の不足・バスの乗り降り時の安全性・積雪時の除雪・職が続かない・低収入、金銭的な生活苦・冬季の燃料確保・また、気軽に相談できる福祉の窓口がわからない・ヘルプマークをつけていても配慮してもらえない			
合計	1,229	100	

※本編9p「現在の生活で、自分の健康や身体のこと（47.0%）、老後のこと（41.6%）を心配している人が多い」の記述は、回答者実数389人に対する割合を算出したもの。ここでは延べ回答者数1,229人に対する割合を算出している。

2 日常生活について

問13 困ったことがあったら誰に、またはどこに相談しているか（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 家族・親戚	310	40.5
2 友人・知人	67	8.7
3 近所の人	13	1.7
4 職場の人	21	2.7
5 園・学校	26	3.4
6 ホームヘルパー	13	1.7
7 医療機関	71	9.3
8 民生委員・児童委員	9	1.2
9 社会福祉協議会	7	0.9
10 計画相談支援事業所	10	1.3
11 基幹相談支援センター	4	0.5
12 地区相談支援事業所(ほくとう、ほくせい、なんとう、なんせい)	15	2.0
13 発達障がい支援事業所	6	0.8
14 児童発達支援センター	4	0.5
15 サービスを受けている施設・事業所	71	9.3
16 障がい者(児)団体	9	1.2
17 障がい者の当事者である相談員	13	1.7
18 市役所	38	5.0
19 どこに相談していいか、わからない	33	4.3
20 相談したいと思ったことがない	17	2.2
21 その他	9	1.2
(その他の内容) ・一部の項目に関して相談あり・後見人、訪問看護師		
合計	766	100

3 障害福祉サービスについて

問14 利用しているサービス（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 居宅介護(ホームヘルプ)	9	2.4
2 重度訪問介護	3	0.8
3 同行援護	2	0.5
4 行動援護	1	0.3
5 生活介護	18	4.8
6 療養介護	3	0.8
7 短期入所(ショートステイ)	25	6.7
8 自立生活援助	7	1.9
9 自立訓練(機能訓練・生活訓練)	9	2.4
10 就労移行支援	6	1.6
11 就労継続支援A型	9	2.4
12 就労継続支援B型	24	6.4
13 就労定着支援	3	0.8
14 就労選択支援	0	0.0
15 施設入所支援	14	3.7
16 共同生活援助(グループホーム)	12	3.2
17 児童発達支援	6	1.6
18 居宅訪問型児童発達支援	0	0.0
19 保育所等訪問支援	4	1.1
20 放課後等デイサービス	31	8.3
21 地域活動支援センター	9	2.4
22 移動支援事業	7	1.9
23 日中一時支援事業	5	1.3
24 訪問入浴介護サービス事業	1	0.3
25 計画相談支援・障がい児童相談支援	18	4.8
26 一般相談支援	8	2.1
27 意思疎通支援(手話・要約筆記など)	2	0.5
28 利用していない(該当する福祉サービスがない)	129	34.4
29 その他	10	2.7
(その他の主な内容) ・訪問介護サービス・病院のデイケアサービス・デイケア・通所リハビリ・通所介護・障害者職業センター		
合計	375	100

問15 なかなか利用できなかったサービスはあるか（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 居宅介護(ホームヘルプ)	2	1.2
2 重度訪問介護	1	0.6
3 同行援護	0	0.0
4 行動援護	0	0.0
5 生活介護	5	2.9
6 療養介護	2	1.2
7 短期入所(ショートステイ)	10	5.8
8 自立生活援助	1	0.6
9 自立訓練(機能訓練・生活訓練)	5	2.9
10 就労移行支援	3	1.8
11 就労継続支援A型	3	1.8
12 就労継続支援B型	4	2.3
13 就労定着支援	1	0.6
14 就労選択支援	1	0.6
15 施設入所支援	10	5.8
16 共同生活援助(グループホーム)	10	5.8
17 児童発達支援	3	1.8
18 居宅訪問型児童発達支援	0	0.0
19 保育所等訪問支援	0	0.0
20 放課後等デイサービス	13	7.6
21 地域活動支援センター	1	0.6
22 移動支援事業	3	1.8
23 日中一時支援事業	2	1.2
24 訪問入浴介護サービス事業	0	0.0
25 計画相談支援・障がい児童相談支援	1	0.6
26 一般相談支援	3	1.8
27 意思疎通支援(手話・要約筆記など)	0	0.0
28 利用していない(該当する福祉サービスがない)	81	47.4
29 その他	6	3.5
(その他の内容) ・訪問リハビリ		
合計	171	100

3 障害福祉サービスについて

問16 どこを選ばばよいか迷ったサービスはあるか（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 居宅介護(ホームヘルプ)	0	0.0
2 重度訪問介護	1	0.7
3 同行援護	0	0.0
4 行動援護	0	0.0
5 生活介護	4	2.6
6 療養介護	2	1.3
7 短期入所(ショートステイ)	6	4.0
8 自立生活援助	2	1.3
9 自立訓練(機能訓練・生活訓練)	3	2.0
10 就労移行支援	4	2.6
11 就労継続支援A型	4	2.6
12 就労継続支援B型	7	4.6
13 就労定着支援	0	0.0
14 就労選択支援	2	1.3
15 施設入所支援	2	1.3
16 共同生活援助(グループホーム)	4	2.6
17 児童発達支援	3	2.0
18 居宅訪問型児童発達支援	0	0.0
19 保育所等訪問支援	1	0.7
20 放課後等デイサービス	9	6.0
21 地域活動支援センター	3	2.0
22 移動支援事業	1	0.7
23 日中一時支援事業	1	0.7
24 訪問入浴介護サービス事業	0	0.0
25 計画相談支援・障がい児童相談支援	2	1.3
26 一般相談支援	5	3.3
27 意思疎通支援(手話・要約筆記など)	0	0.0
28 利用していない(該当する福祉サービスがない)	80	53.0
29 その他	5	3.3
(その他の内容) ・通所介護		
合計	151	100

問17 毎日の生活を送る上で必要な支援やサービス（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 生活の場の確保(施設入所・グループホームを含む)	65	10.5
2 日中、通うことができる施設の充実	73	11.8
3 就労するため(就労するまでの支援)	59	9.6
4 就労継続のため(就労してから)の支援	56	9.1
5 地域生活への移行の支援	15	2.4
6 車いす・補聴器など福祉機器の普及	46	7.5
7 文化・スポーツ活動への参加の支援	29	4.7
8 自治会・NP0・ボランティア・隣近所など地域社会とのつながり	31	5.0
9 自分の権利を守ってくれる(権利擁護)制度の普及	52	8.4
10 福祉制度やサービスを利用するための相談支援体制の充実	60	9.7
11 居宅介護(ホームヘルプ)の充実(自宅での日常生活の支援)	32	5.2
12 移動支援(ガイドヘルプ)の充実(外出時の付き添い)	36	5.8
13 民間施設を利用した時の合理的配慮	36	5.8
14 その他	27	4.4
(その他の主な内容) ・学校まで送り迎え、学校に着いてから教室までの移動のサポート・福祉サービスを継続する手続きのサポート・緊急時の対応の支援・障害年金などの金銭的援助・学習障害を専門でサポートできる施設・排便管理・移動手段の確保(バスや電車、介護タクシー等の利便性の向上)		
合計	617	100

4 介助の状況について

問18 日常的に、主に（あなたを）介助しているのは誰か（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 親	78	20.2
2. 配偶者	69	17.8
3. 兄弟・姉妹	17	4.4
4. 子や孫(その配偶者を含む)	30	7.8
5. 祖父母	4	1.0
6. 友達・仲間など	2	0.5
7. ボランティア	2	0.5
8. ホームヘルパー・ガイドヘルパー	12	3.1
9. 施設の職員	38	9.8
10. 介助は受けていない	126	32.6
11. その他	9	2.3
(その他の内容) ・病院・誰もいない・園の先生・学校の先生・甥		
合計	387	100

問18で「1」～「6」を選択した人

問19 介助してくれる方の年齢

	回答数(人)	割合(%)
1. 10代	2	1.0
2. 20代	2	1.0
3. 30代	17	8.5
4. 40代	27	13.4
5. 50代	44	21.9
6. 60代	46	22.9
7. 70代	44	21.9
8. 80代以上	19	9.5
合計	201	100

5 生活環境について

問20 外出の頻度（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 毎日	116	29.8
2. 週5～6日くらい	66	17.0
3. 週3～4日くらい	66	17.0
4. 週1～2日くらい	55	14.1
5. 月に1～3回など不定期	32	8.2
6. ほとんど外出がない	26	6.7
7. その他	1	0.3
無回答	27	6.9
(その他の主な内容) ・病院通院の為の外出がほとんど・デイサービス週3回・都合あう日		
合計	389	100

5 生活環境について

問21 外出するときの主な手段（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 徒歩	133	18.8
2 車いす	23	3.2
3 自転車・バイク	45	6.4
4 電車	37	5.2
5 バス(コミュニティバスを含む)	49	6.9
6 自分の運転する車	137	19.4
7 家族などが運転する車	178	25.1
8 タクシー	31	4.4
9 介護タクシー	19	2.7
10 施設や病院などの送迎者	53	7.5
11 その他	3	0.4
(その他の内容) ・シニアカー・抱っこ・外出しない		
合計	708	100

問22 身の回りで特に整備または援助が必要なこと（3つまで選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 住宅のバリアフリー化	54	13.4
2 道路の段差解消や歩道整備	56	13.9
3 建物内のスロープやエレベーターの設置	34	8.5
4 障がい者用トイレの設置	34	8.5
5 誘導ブロックの設置	5	1.2
6 音響式信号機の設置	13	3.2
7 障がい者用駐車場の設置	57	14.2
8 リフト付き・ノンストップバスの運行	13	3.2
9 電車や駅のバリアフリー化	21	5.2
10 在宅時の介助者(ホームヘルパーを含む)	26	6.5
11 外出時の介助者(ガイドヘルパーを含む)	44	10.9
12 その他	45	11.2
(その他の主な内容) ・特にない・廊下や街灯を照らす灯・緊急時の介助者・警察署など公的機関での配慮・障がい者用駐車場の適正な使い方の周知・駅舎の駐輪所の位置の配慮・精神障害への理解・冬除雪・外出時の送迎・金銭的援助・ルビの表記・聴力障害に対応した玄関インターホンランプ・排便管理・身体障害者に限らないスペース・公共交通機関など交通手段の利便性の向上		
	402	100

6 社会参加・地域生活について

問23 最近1年間で参加した行事や活動（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 スポーツ・レクリエーション事業	41	7.8
2 セミナー・講演会などの学習活動	26	5.0
3 芸術文化活動(アート、劇、音楽など)	44	8.4
4 自治会活動・祭など地域の行事	97	18.5
5 趣味などのサークル活動	36	6.9
6 学校の行事	64	12.2
7 ボランティア活動	21	4.0
8 参加していない	178	34.0
9 その他	16	3.1
(その他の内容) ・病院のデイケア・デイサービス・デイホーム・警備会社の現 任教育・施設の行事・サービスを受けている施設での奉仕活 動・虹の会レク・家族や親せきたちとの集まり、パーティー等		
合計	523	100

問24 今後どのような行事や活動に参加したいか（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 スポーツ・レクリエーション事業	62	11.0
2 セミナー・講演会などの学習活動	46	8.2
3 芸術文化活動(アート、劇、音楽など)	76	13.5
4 自治会活動・祭など地域の行事	79	14.0
5 趣味などのサークル活動	88	15.6
6 学校の行事	46	8.2
7 ボランティア活動	26	4.6
8 参加したいと思わない	132	23.4
9 その他	8	1.4
(その他の主な内容) ・施設内の行事・自分に合うものがあれば参加したい・障がい のため参加しにくい		
合計	563	100

問25 （参加していない、参加したいと思わない場合）その理由（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 参加したい行事がない	34	12.1
2 時間の余裕がない	24	8.6
3 参加費が負担になる	24	8.6
4 会場に行くことが困難	54	19.3
5 会場が障がいに対応していない(バリアフリー化されていないなど)	13	4.6
6 一緒に行く人がいない	43	15.4
7 関心がない	76	27.1
8 その他	12	4.3
(その他の主な内容) ・障がいのため人と接したくない、接することができない、不安がある・聴覚障がいなど障 がいのため参加しにくい・障害のある娘のことがあるため・体力面・年齢的なもの・体調不 良・大きな行事以外は積極的にはいかない・興味はあるが行きたいとまではならなかった・ 参加できる行事がない		
合計	280	100

6 社会参加・地域生活について

問26 地域との関わりについて、どのような希望をもっているか（3つまで選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 心から打ち解けられ、日ごろから互いに助け合える関係を築きたい	85	17.3
2 いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい	159	32.4
3 ボランティアや自治会の活動などを通して、協力して地域を良くしていきたい	47	9.6
4 必要な関わりだけにとどめて、自分のことは自分でしていきたい	156	31.8
5 なるべく関わりを持ちたくない	35	7.1
(5の主な理由) ・わからない・そっとしておいてほしい・とても閉鎖的で障がいに対して理解が乏しい・信頼できる人がいない・仲のいい人、親しい人がいない・障がいのため関わりは難しい・地域の方にかえってご迷惑をかけそう・自治体に入っていない・対人関係が苦手・興味がない・年齢や体調的に無理・人が嫌い・事情がわかっている家族や友達だけで十分		
6 その他	9	1.8
(その他の主な内容) ・コロナ以降現実的ではない・施設で関わりができていない・1を願うが、その手段がない・地域の活動があれば参加したい・考えたことがない		
合計	491	100

問27 障がいのある方への市民の理解を深めるために、何が必要だと思うか（3つまで選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 子どもの頃から障がいについての理解を深めること	196	29.7
2 障がいに関する講演会や学習会を開催する	45	6.8
3 スポーツや文化的活動などを通じた交流をすること	53	8.0
4 障がいのある方が自由に外出できるまちづくりを進めること	141	21.4
5 障がいのある方の活動をPRすること	18	2.7
6 全ての人が障がいのある方の支援の仕方について学ぶこと	119	18.0
7 福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流を進めること	72	10.9
8 その他	16	2.4
(その他の主な内容) ・無理に理解を促すのはかえって悪手だ。そこまで目立ちたくないし、ほどほどでいい・私は見た目、障がい者とは見られず、ヘルプマークをつけているのですが、まわり（市民の方）の意識がなく、健常者の様に対応されていてつらい。ヘルプマークの周知が必要だ・健常者の方には障がいの方に対する心理的な痛みは理解出来ないと思う・誰でも（障がい者に）なる可能性があることを知ってほしい・外出時など、いつでもいろいろな方（年齢、性別など）手を貸して下さる。障がい者も人なんだから感謝の気持ちを持つべきだと思う・保育園幼稚園においては多少障がいのある子供も普通の子と同等に同じ施設で見て欲しい。教育者の育成に力を入れて頂きたい・障がい者であることを過度に考えないで欲しい・学校の先生が障害についての専門知識を身につける		
合計	660	100

6 社会参加・地域生活について

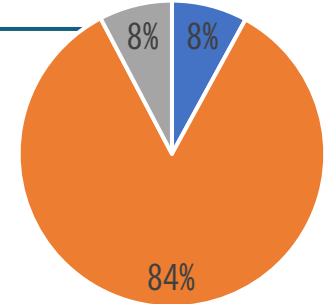
問28 入院、入所している人が地域で暮らすために何が
必要か（3つまで選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 日中や夜間支援を行うグループホームの増設	93	12.4
2 一般住宅への入居支援の充実	41	5.5
3 障がい福祉サービスの充実(訪問介護など)	126	16.9
4 24時間ケア(見守り)が行える体制の整備	108	14.5
5 継続的にかかわる人材(寄り添う人)の確保	156	20.9
6 地域で気軽に相談できる体制(機関)づくり	127	17.0
7 身近な地域における医療的ケアの提供体制の充実	81	10.8
8 その他	15	2.0
(その他の主な内容) ・地域での楽しみ、必要とされている感覚・買い物や食事など一緒に日常をすごしてくれるボランティアの育成・地域の人々の理解・地域で完全に自立した生き方を送れても、その地域で孤立してしまい取り残されていくという現実が枚挙にいとまがないというのが懸念材料		
合計	747	100

7 保健・医療について

問29 在宅で医療的ケアが必要か（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1. 必要	31	8.0
2. 必要ではない	328	84.3
無回答	30	7.7
合計	389	100



■ 1. 必要 ■ 2. 必要ではない ■ 無回答

問30 健康状態を維持するために必要な支援（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 個別相談	84	15.2
2 専門家による訪問指導	44	8.0
3 健康に関する教室や口座の開催	34	6.2
4 医師の指導	159	28.8
5 運動施設の充実	61	11.1
6 余暇支援の充実	52	9.4
7 特になし	111	20.1
8 その他	7	1.3
(その他の内容) ・職員により管理・積雪時の除雪・透析が楽に出来ないか・介護認定を受けていなくても利用できる施設や追動施設・健康診断の支援・運動系のデイサービス		
合計	552	100

8 教育・就学について

問31 (あなたが通園・通学している場合)
その学校・園はどれか(1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 保育園	0	0.0
2 幼稚園	0	0.0
3 認定こども園	7	13.0
4 小学校(通常学級)	13	24.1
5 小学校(特別支援学級)	9	16.7
6 中学校(通常学級)	5	9.3
7 中学校(特別支援学級)	1	1.9
8 高等学校	3	5.6
9 特別支援学校	10	18.5
10 大学・大学院・短大・高専	1	1.9
11 専門学校	0	0.0
12 その他	5	9.3
(その他の内容)		
合計	54	100

問32 学校・園生活を送る上で、特に重要なことや配慮が必要なこと
(3つまで選択)

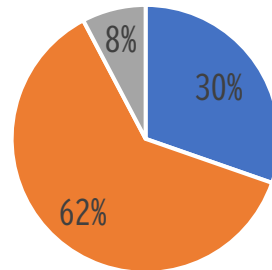
	回答数(人)	割合(%)
1 通園・通学的手段	21	10.9
2 学習サポート体制	18	9.4
3 学校・園のバリアフリー化	3	1.6
4 認定外保育施設によるサポート体制	0	0.0
5 学校・園での生活面のサポート体制	21	10.9
6 入園・入学・卒園・卒業などにおける情報の引き継ぎ	19	9.9
7 進路指導(進学・就学支援含む)	19	9.9
8 福祉教育や学習カリキュラム	4	2.1
9 友達との交流	23	12.0
10 学校・園の職員の理解	26	13.5
11 児童・生徒(またはその保護者)の理解	18	9.4
12 自分の住む地域の学校に通うこと	3	1.6
13 医療的ケア児への支援	3	1.6
14 特になし	12	6.3
15 その他	2	1.0
(その他の内容) ・学年が上がると教室も上にいくので、重い荷物を先生に頼めない為、荷物用のエレベーターがほしい。これから、高校に入るのが不安。		
合計	192	100

9 就労について

問33 現在、収入をともなう仕事をしているか

(1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1. している	118	30.3
2. していない	241	62.0
無回答	30	7.7
合計	389	100



■ 1. している ■ 2. していない ■ 無回答

問35 働き続けるなかで、どのような困難を感じるか (1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 駐車場やトイレ、階段など、職場のバリアフリー化が進んでいない	9	16.7
2 通院や体調不良時に柔軟な対応が得られない	10	18.5
3 障がいの内容や必要な援助について、上司や同僚の理解が足りない	8	14.8
4 仕事で困ったときに、職場で気軽に相談できる相手や窓口がない	15	27.8
5 その他	12	22.2
(その他の主な内容) ・ 十分な理解や配慮を得られているため困難は無い、困ってない・ 時給が安い・ 一般就労であるが故に合理的配慮等が不十分・ 仕事内容や職場環境への対応や適応が難しい		
合計	54	100

問34 (収入をともなう仕事をしている場合) その状況 (1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 一般企業などで正社員・正職員として働いている	30	24.8
2 一般企業などで臨時職員、アルバイト、パートとして働いている	30	24.8
3 自営業を営んでいる	18	14.9
4 福祉施設、作業所(就労継続支援A型事業所、B型事業所など)で働いている	35	28.9
毎月の賃金・工賃 ・ 0～1万円未満(7人)、1万円～5万円未満(11人)、5万円～10万円未満(2人)、10万円～15万円未満(2人)、16万円以上(0人)・ 説明がなかったのわからない(1人)		
5 その他	8	6.6
(その他の主な内容) ・ オーナーの立場で・ 行政や公立学校の会計年度任用職員として・ 準職員として・ 障がい当事者団体スタッフ		
合計	121	100

9 就労について

問36 (問34で1,2,3と回答した場合)

現在、働いている仕事の分野 (1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 農林水産	4	5.1
2 製造(工場勤務など)	13	16.5
3 土木・建築	9	11.4
4 配送・運転業務	3	3.8
5 清掃	6	7.6
6 医療・看護	5	6.3
7 福祉・介護	4	5.1
8 商品等の販売	5	6.3
9 飲食	3	3.8
10 警備・保安業務	2	2.5
11 営業	0	0.0
12 包装	3	3.8
13 一般事務・経理	13	16.5
14 その他	9	11.4
(その他の内容) ・情シス・倉庫作業・不動産・デザイン・リモートでの業務支援		
	79	100

問37 (現在、収入をとまなう仕事をしていない場合)

その主な理由 (1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 重い障がいのため	38	14.7
2 病気のため	37	14.3
3 年齢(未就学・高齢)のため	110	42.6
4 通勤が困難なため	7	2.7
5 雇用してもらえないため	5	1.9
6 自分に合った仕事がないため	8	3.1
7 障がいへの理解が低い	3	1.2
8 職場の人間関係に不安があるため	7	2.7
9 賃金が低いなどの労働条件が悪い	1	0.4
10 家事・育児・介護に専念している	6	2.3
11 現在、職業訓練中	2	0.8
12 現在、在学中	28	10.9
13 その他	6	2.3
(その他の主な内容)		
合計	258	100

9 就労について

問38 （現在、収入をとまなう仕事をしていない場合）
今後、働きたいと思う仕事の分野（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 農林水産	7	3.8
2 製造(工場勤務など)	19	10.2
3 土木・建築	5	2.7
4 配送・運転業務	5	2.7
5 清掃	15	8.1
6 医療・看護	3	1.6
7 福祉・介護	8	4.3
8 商品等の販売	12	6.5
9 飲食	7	3.8
10 警備・保安業務	3	1.6
11 営業	7	3.8
12 包装	12	6.5
13 一般事務・経理	20	10.8
14 その他	63	33.9
(その他の内容) ・芸術分野(音楽、映像、文化芸術)・仕事はしたくない・障がいや病気、年齢のためできない・IT業界・わからない・高齢・ゲーム業界、簡単な内職・人とかわらない自宅での仕事・能力がないのでできない・保育・動物を扱う仕事・学術研究		
合計	186	100

問39 障がいのある方が就労するにあたり、どのような配慮が必要か（3つまで選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 仕事に選択肢があること	104	13.4
2 変則的な勤務形態が可能であること	52	6.7
3 賃金が妥当であること	84	10.8
4 昇給・昇進があること	28	3.6
5 障がいのある方に配慮した設備が整っていること	108	13.9
6 通勤手段があること	72	9.3
7 自宅で仕事ができること	50	6.4
8 障がいに対する周囲の理解があること	175	22.6
9 通院のための休暇が取れる体制が整っていること	75	9.7
10 就労のための職業訓練が充実していること	19	2.4
11 その他	9	1.2
(その他の内容) ・ノルマや成果を厳しく求められないこと・診断書のいらない病気休暇制度・一般就労でも当事者がヘルパーをつけて働ける制度		
	776	100

10 権利擁護について

問40 現在または過去に次のような経験があるか

(複数選択)

	回答数(人)	割合(%)	※
1 学校でのいじめ	55	9.2	
2 施設でのいじめ・虐待	7	1.2	
3 職場でのいじめ	32	5.4	
4 家庭内での虐待(暴力、介護の放棄など)	19	3.2	
5 体罰・差別的な言動(暴言など)	24	4.0	
6 本人の意思に反する金銭管理	11	1.8	
7 法律に違反する長時間労働、低賃金労働など	11	1.8	
8 プライバシーの侵害	14	2.3	
9 強引な訪問販売・契約締結の強要など	7	1.2	
10 犯罪被害(傷害、性的被害、年金横領など)	5	0.8	
11 地域社会での孤立	16	2.7	
12 特に、権利侵害などを受けたことはない	194	32.4	
13 その他	9	1.5	
(その他の内容) ・交通事故時に警察に不当な対応をされた・身体障害者になったことで面倒を見れないと園から追い出された・相談員との相性が悪く交代の希望が聞き入れてもらえなかった・最低賃金を下回る工賃・いじめまではいかないが障がいを経験した理由とした同級生からのからかい			
合計	598	100	

問41 問40のような経験をした時、誰に、またはどこに相談したか(複数選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 親や家族	49	28.5
2 学校の先生や施設の職員	24	14.0
3 地区相談支援事業所(ほくとう、ほくせい、なんとう、なんせい)	4	2.3
4 計画相談支援事業所	5	2.9
5 弁護士などの専門家	0	0.0
6 市役所などの相談窓口	6	3.5
7 相談先がわからなかった	21	12.2
8 相談しなかった(あきらめた)	60	34.9
9 その他	3	1.7
(その他の内容) ・上司・同僚		
合計	172	100

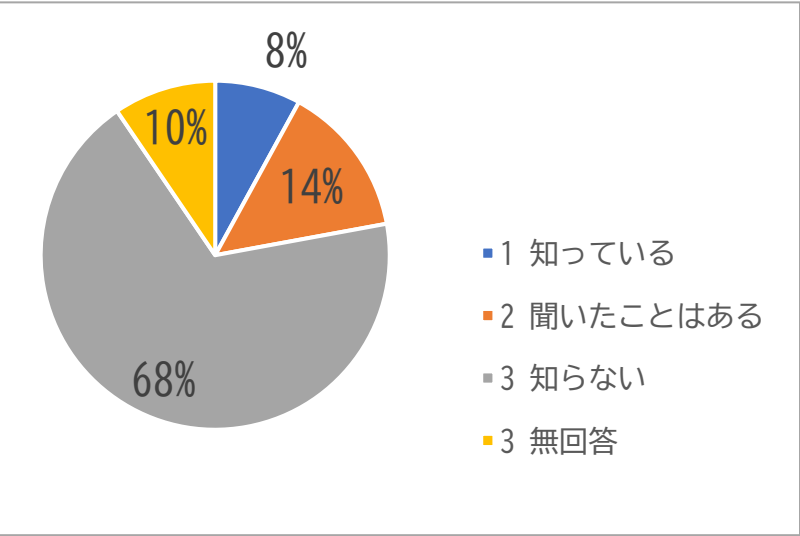
※本編9p「約7人に1人が、学校でのいじめを経験している」の記述は、回答者実数389人に対する割合を算出したもの。ここでは延べ回答者数598人に対する割合を算出している。

10 権利擁護について

次の言葉を知っているか（1つ選択）

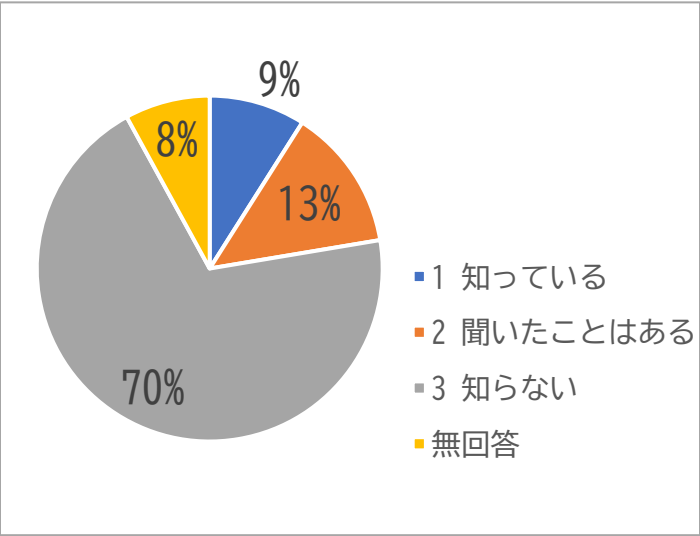
問42 障害者差別解消法

	回答数(人)	割合(%)
1 知っている	31	8.0
2 聞いたことはある	55	14.1
3 知らない	266	68.4
無回答	37	9.5
合計	389	100



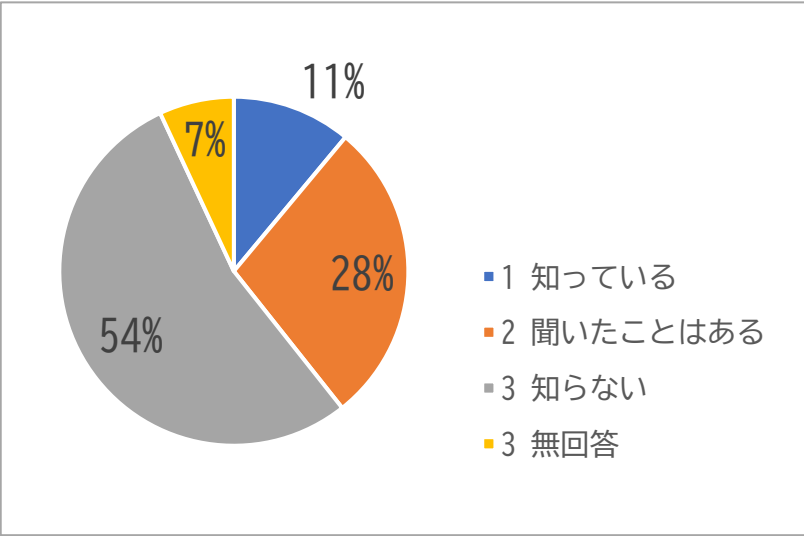
問43 合理的配慮の提供

	回答数(人)	割合(%)
1 知っている	35	9.0
2 聞いたことはある	52	13.4
3 知らない	271	69.7
無回答	31	8.0
合計	389	100



問44 障害者虐待防止法

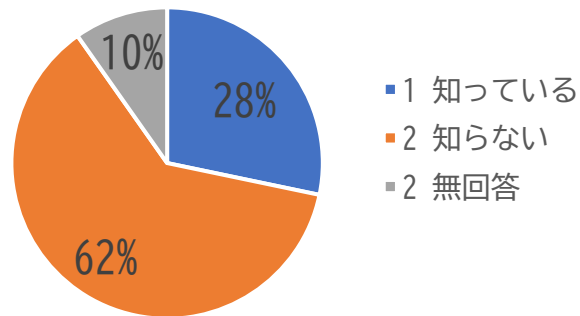
	回答数(人)	割合(%)
1 知っている	43	11.1
2 聞いたことはある	110	28.3
3 知らない	209	53.7
無回答	27	6.9
合計	389	100



10 権利擁護について

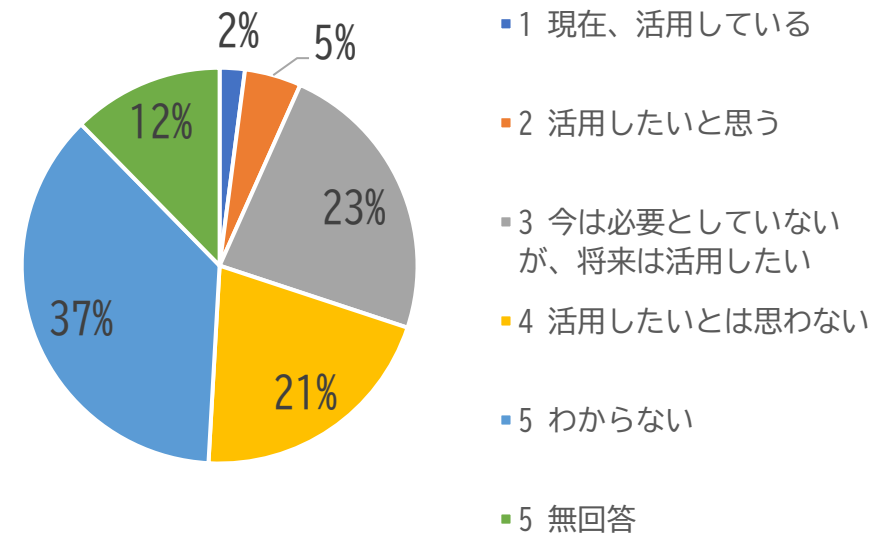
問45 成年後見制度の具体的な内容を知っているか
(1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 知っている	110	28.3
2 知らない	241	62.0
無回答	38	9.8
合計	389	100.0



問46 成年後見制度を活用したいか (1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 現在、活用している	8	2.1
2 活用したいと思う	18	4.6
3 今は必要としていないが、将来は活用したい	91	23.4
4 活用したいとは思わない	81	20.8
5 わからない	143	36.8
無回答	48	12.3
合計	389	100

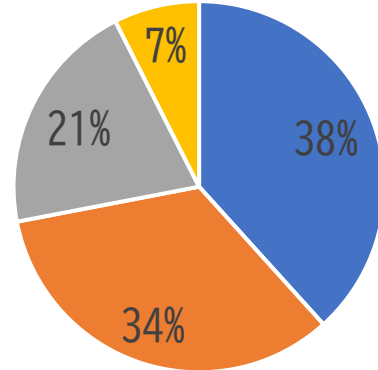


11 災害時の避難・対策について

問47 災害時に一人で避難できるか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 知っている	110	28.3
2 知らない	241	62.0
無回答	38	9.8
合計	389	100.0

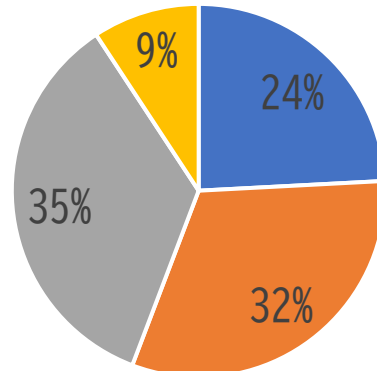
- 1 避難できる ■ 2 避難できない
■ 3 わからない ■ 無回答



問48 近所に助けてくれる人はいるか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 いる	94	24.2
2 いない	123	31.6
3 わからない	136	35.0
無回答	36	9.3
合計	389	100

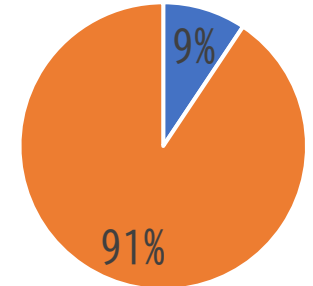
- 1 いる ■ 2 いない
■ 3 わからない ■ 無回答



問49 障がい者用防災スカーフを知っているか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 はい	33	9.4
2 いいえ	319	90.6
合計	352	100

- 1 はい ■ 2 いいえ



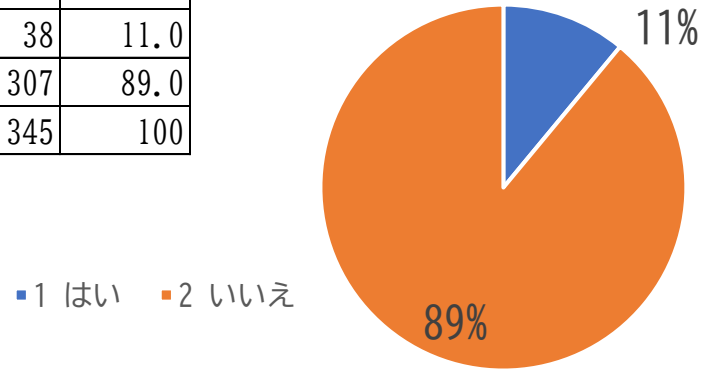
問50 防災スカーフを取得する気がない理由（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 家族の支援を受けられるから	74	35.7
2 地域の人々の支援を受けられるから	21	10.1
3 個人情報を知られたくないから	19	9.2
4 持っていても支援が期待できないから	28	13.5
5 利用方法がわからないから	57	27.5
6 その他	8	3.9
(その他の理由) ・入所している・そこまで必要としない・1人で動ける・その時にまで助かりたいと思わない		
合計	207	100

11 災害時の避難・対策について

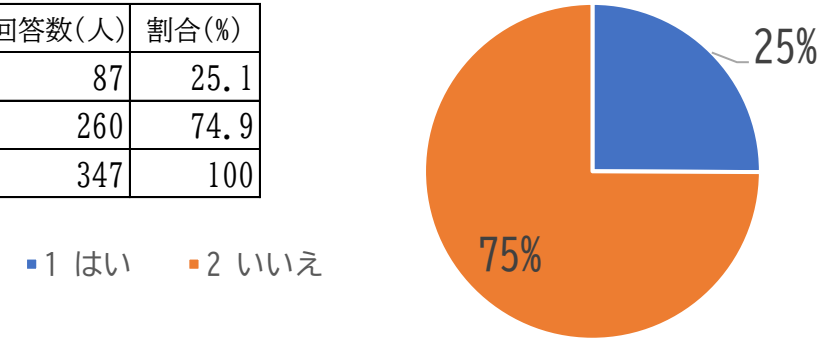
問51 NET119を知っているか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 はい	38	11.0
2 いいえ	307	89.0
合計	345	100



問52 要支援者プランを知っているか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 はい	87	25.1
2 いいえ	260	74.9
合計	347	100



問53 避難支援プランに登録する気がない理由（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 家族の支援を受けられるから	63	34.2
2 地域の人からの支援を受けられるから	19	10.3
3 個人情報を知られたくないから	20	10.9
4 登録しても支援が期待できないから	21	11.4
5 制度がよく理解できないから	50	27.2
6 その他	11	6.0
(その他の理由) ・制度に疑問や不安があるため・入所しているため・災害時の支援に期待していないため・自分で動けるから		
合計	184	100

11 災害時の避難・対策について

問54 6年前と比べて、災害に対する備えや対策は進んだか
(1つ選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 進んだ	42	10.8
2 進んだ部分と、まだ不安な部分が同くらいある	54	13.9
3 進んだ部分もあるが、まだ不安な部分のほうが多い	80	20.6
4 変わらず、不安な部分がある	155	39.8
5 不安な部分が増えた	9	2.3
無回答	49	12.6
(不安の増えた部分) ・今後さらに高齢化が進むため病気やケガ等にどう備えていくかが不安・高所に居住しているため停電時に逃げ遅れないか不安・災害が起こる回数が増えていることが不安・高齢となり準備した荷物を持って移動できるか不安		
合計	389	100

問55 災害発生時に支援してほしいこと (3つまで選択)

	回答数(人)	割合(%)
1 災害情報を知らせてほしい	118	15.3
2 避難場所を教えてほしい	71	9.2
3 避難時の声かけをしてほしい	98	12.7
4 避難場所までの避難を支援してほしい(移動手段を確保してほしい)	106	13.8
5 避難場所で障がいに応じた支援をしてほしい	129	16.8
6 避難場所の設備(トイレ・段差など)をバリアフリー化してほしい	78	10.1
7 手話など、コミュニケーション手段を確保してほしい	6	0.8
8 必要な治療や薬を確保してほしい	121	15.7
9 特にない	38	4.9
10 その他	4	0.5
(その他理由) ・諦めている・補聴器用電池があるとよい・避難先での入浴介助・アレルギー対応・子どもが多いので子どもの誘導を含め手伝って欲しい		
合計	769	100

12 情報・コミュニケーションについて

問56 福祉サービスに関する情報を誰から、どこから入手しているか（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 家族・友人	131	18.9
2 民生委員児童委員	14	2.0
3 障がいの当事者である相談員	39	5.6
4 障がい者(児)の団体	11	1.6
5 地区相談支援事業所(ほくとう、ほくせい、なんとう、なんせい)	18	2.6
6 計画相談支援事業所	18	2.6
7 社会福祉協議会	19	2.7
8 こども家庭センター(旧保健センター)	1	0.1
9 子ども家庭センター以外の市役所の窓口	5	0.7
10 サービスを受けているところ(施設など)	63	9.1
11 ホームヘルパー・ガイドヘルパー	7	1.0
12 学校	20	2.9
13 保育園・幼稚園・認定こども園	4	0.6
14 医療機関	71	10.2
15 市の広報誌、パンフレット	66	9.5
16 新聞・雑誌・本	39	5.6
17 テレビ・ラジオ	46	6.6
18 福井市のホームページ・SNS	35	5.1
19 福井市以外のホームページ・SNS	10	1.4
20 どこで入手できるかわからない	66	9.5
21 その他	10	1.4
(その他の内容) ・調べることがない・インターネットサイト・市役所・ケアマネージャー		
合計	693	100

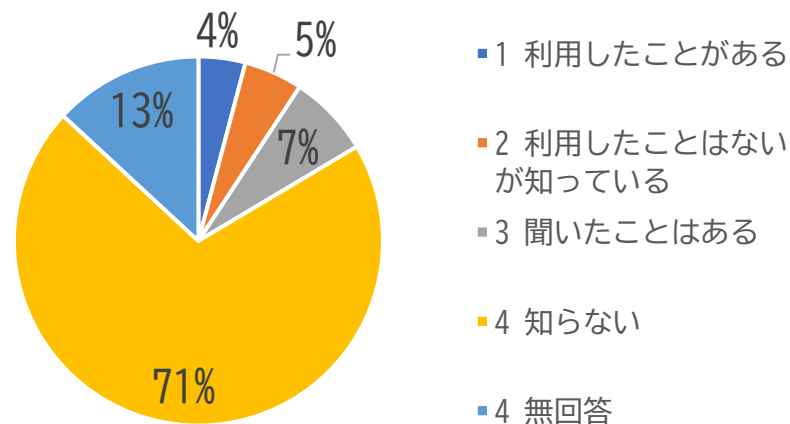
12 情報・コミュニケーションについて

問57 障がいのある方の情報収集・コミュニケーションには、どのようなことが必要か（複数選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 字幕や音声読み上げソフトなど、個々の障がいに適応した携帯による情報提供	59	17.7
2 わかりやすいパンフレット、福祉施策の手引	108	32.4
3 障がいのある方の立場に立った相談支援体制	128	38.4
4 手話通訳者、要約筆記者の派遣など、コミュニケーション支援の充実	13	3.9
5 音声案内装置の整備	14	4.2
6 その他	11	3.3
(その他の主な内容) ・重要なところが一目でわかる工夫（赤字・太字）		
合計	333	100

問58 「子育てファイルふくいっ子」を知っているか（1つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 利用したことがある	16	4.1
2 利用したことはないが知っている	20	5.1
3 聞いたことはある	28	7.2
4 知らない	274	70.4
無回答	51	13.1
合計	389	100



13 今後の障がい児者関連事業の重要度について

問59 今後、必要と考える事業（3つ選択）

	回答数(人)	割合(%)
1 自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	77	8.7
2 入所施設サービスの充実	67	7.6
3 グループホームなど地域で生活するための場所の充実	44	5.0
4 障がい児者通所支援サービスの充実	39	4.4
5 福祉手当の支給など経済的支援の充実	108	12.2
6 健康診査や健康教育などの保険・医療サービスの充実	30	3.4
7 道路の段差解消や歩道整備	25	2.8
8 移動に必要な公共交通機関の充実と、利用時の利便性の向上	51	5.8
9 住宅・建築物のバリアフリー化	25	2.8
10 災害時の安心・安全(避難誘導體制)の確保	44	5.0
11 地域と連携した防犯活動の充実	9	1.0
12 何でも相談できる窓口など相談体制の充実	72	8.1
13 行政からの保険や福祉に関する情報提供の充実	21	2.4
14 医療・保険・福祉・教育・労働の連携強化	40	4.5
15 安心してこどもを生み育てられる子育て環境の充実	18	2.0
16 働く意欲のある人への就労支援の充実	47	5.3
17 住民同士が触れ合う機会や場の充実	2	0.2
18 誰もが参加しやすいスポーツ・文化活動の充実	14	1.6
19 障がいのある方の芸術文化活動への支援と発表の機会の確保	6	0.7
20 隣近所などの理解や協力による見守り勝ち同への支援の充実	20	2.3
21 ボランティアの育成や活動、地域活動への支援の充実	8	0.9
22 差別や偏見をなくすための人権教育や広報活動の充実	31	3.5
23 (親の高齢化や親亡きあとなど)周囲の方による支援が 難しくなったときのサポート体制の確保	81	9.2
24 その他	6	0.7
(その他の内容) ・ワンストップ相談窓口（あちこち移動しなくていい高齢者にもやさしい相談体制）		
合計	885	100.0

企業アンケートの結果

- 1 企業情報について
- 2 障がいのある方の雇用について
- 3 権利擁護について
- 4 バリアフリーの状況について
- 5 自殺対策について ※自殺対策協議会のための調査のため結果は割愛
- 6 手話言語・情報コミュニケーションについて
- 7 自由意見

1 企業情報について

問1 業種（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 農林水産	1	1.1
2. 建設・土木・建築	10	11.4
3. 製造	33	37.5
4. 電気・ガス	0	0.0
5. 運輸・通信	5	5.7
6. 卸売・小売・飲食	17	19.3
7. 金融・保険	2	2.3
8. 不動産	1	1.1
9. サービス	16	18.2
10. その他	3	3.4
（その他の内容） 学術研究、介護・医療、法人格のある団体（報酬審査）		
合計	88	100.0

問2 従業員数（1つ選択）

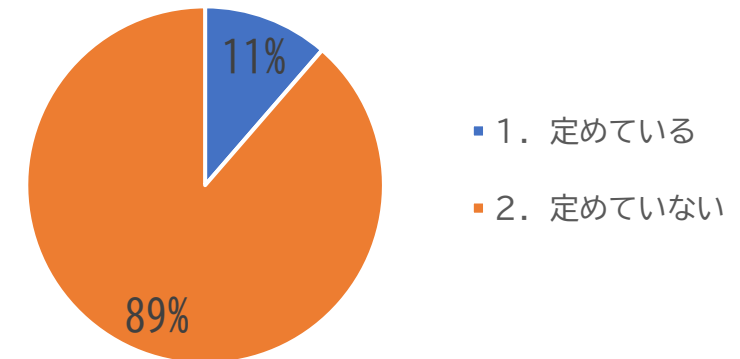
	回答数（社）	割合（％）
1. 1～19人	6	6.8
2. 20～49人	23	26.1
3. 50～99人	26	29.5
4. 100～299人	27	30.7
5. 300～999人	4	4.5
6. 1,000人以上	2	2.3
合計	88	100.0

問3 （従業員数40人以上の場合）
法定雇用率を達成しているか（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 達成している	35	53.8
2. 達成していない	27	41.5
3. わからない	3	4.6
合計	65	100.0

問4 社として障がいのある方への対応方針等を定めているか（1つ選択）

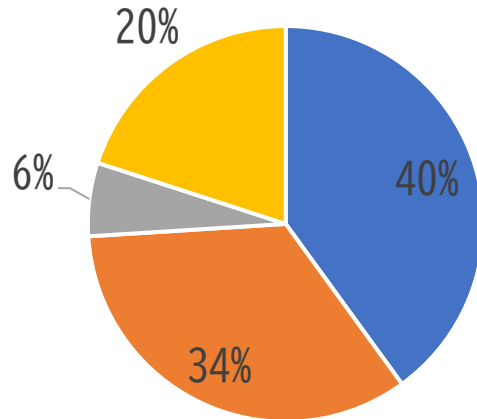
	回答数（社）	割合（％）
1. 定めている	10	11.4
2. 定めていない	78	88.6
合計	88	100.0



2 障がいのある方の雇用について

問5 障がいのある方を雇用しているか（複数選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 正社員・正職員として雇用している	40	40.0
2. 臨時職員、アルバイト、パートとして雇用している	34	34.0
3. 過去に雇用していたが、現在は雇用していない	6	6.0
4. 現在まで一度も雇用したことがない	20	20.0
合計	100	100.0



- 1. 正社員・正職員として雇用している
- 2. 臨時職員、アルバイト、パートとして雇用している
- 3. 過去に雇用していたが、現在は雇用していない
- 4. 現在まで一度も雇用したことがない

問6 （問5で、雇用している、雇用していた場合）
その障がいの種類は次のうちどれか（複数選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 肢体不自由	32	24.4
2. 視覚障がい	6	4.6
3. 聴覚・平衡機能障がい	10	7.6
4. 音声・言語・そしゃく機能障がい	0	0.0
5. 内部障がい	12	9.2
6. 知的障がい	16	12.2
7. 精神障がい	40	30.5
8. 発達障がい	11	8.4
9. 難病	3	2.3
10. 障がいの種類はわからない	1	0.8
11. その他	0	0.0
合計	131	100.0

2 障がいのある方の雇用について

問7 (問5で、雇用している、雇用していた場合)
その主な業務内容 (複数選択)

	回答数 (社)	割合 (%)
1. 農林水産	1	1.1
2. 製造 (工場勤務など)	22	23.9
3. 土木・建築	4	4.3
4. 配送・運転業務	2	2.2
5. 清掃	12	13.0
6. 医療・看護	2	2.2
7. 福祉・介護	6	6.5
8. 商品等の販売	3	3.3
9. 接客や飲食の提供	2	2.2
10. 警備・保安業務	0	0.0
11. 営業	2	2.2
12. 包装	5	5.4
13. 一般事務・経理	20	21.7
14. その他	11	12.0
(その他の内容) エンジニア (システム技術・情報通信)・社内 S E・現場加工業務・オペレーター (電話対応)・品質管理測定業務・整備検査業務		
合計	92	100.0

問8 (問5で、雇用している、雇用していた場合)
雇用したきっかけ (複数選択)

	回答数 (社)	割合 (%)
1. 障がいの有無に関係なく、能力や人柄が採用基準を満たしていたため	39	27.5
2. 人員不足を解消するため	22	15.5
3. 法定雇用率を達成するため	26	18.3
4. ハローワークからの紹介があったため	27	19.0
5. 市雇用調整員からの紹介があったため	5	3.5
6. 特別支援学校から働きかけがあったため	8	5.6
7. 障がい者就労施設からの働きかけがあったため	5	3.5
8. その他	10	7.0
(その他の内容) 在籍中に中途から障がい者となったため・過去に就労実績のある人だったため・紹介を受けたため・ダイバーシティへの取組の一貫として・スポーツや文化芸術等分野に挑戦する人で社の P R にもつながると期待して		
合計	142	100.0

2 障がいのある方の雇用について

問9 (問5で、雇用している、雇用していた場合)
雇用にあたり配慮していること (複数選択)

	回答数 (社)	割合 (%)
1. 駐車場やトイレ、階段など、職場のバリアフリー化を進めている	7	5.3
2. 通院や体調不良時に柔軟な対応ができるよう努めている	41	28.9
3. 障がいの内容や必要な援助について情報共有するなど、上司や同僚に理解を促している	46	32.4
4. 仕事で困ったときに、職場で気軽に相談できる相手や窓口を配置している	34	23.9
5. その他	5	3.5
(その他の内容) 用具を色別にしたり写真付きのマニュアルを用いている・お手洗いに手すりを設置・仕事しやすい環境になるように配慮・仕事内容に差を設けている		
合計	133	100.0

問10 今後の雇用方針 (1つ選択)

	回答数 (社)	割合 (%)
1. 増やしたい	22	25.0
2. 現状維持	38	43.2
3. 減らしたい	1	1.1
(減らしたい理由) 対応が非常に難しいから		
4. わからない	27	30.7
合計	88	100.0

問11 今後の雇用方針 (1つ選択)

	回答数 (社)	割合 (%)
1. 農林水産	5	2.7
2. 製造 (工場勤務など)	32	17.6
3. 土木・建築	5	2.7
4. 配送・運転業務	6	3.3
5. 清掃	33	18.1
6. 医療・看護	1	0.5
7. 福祉・介護	10	5.5
8. 商品等の販売	8	4.4
9. 接客や飲食の提供	7	3.8
10. 警備・保安業務	2	1.1
11. 営業	5	2.7
12. 包装	19	10.4
13. 一般事務・経理	37	20.3
14. その他	12	6.6
(その他の内容) 障がいの内容 (種類・等級) や能力、技術によって特に制限はない・情報システムや情報通信部門 (社内ヘルプデスク、ITサポート担当)・流れ作業・CAD操作、リサイクル関連		
合計	182	100.0

2 障がいのある方の雇用について

問12 雇用に際して、困っていること、課題だと感じていること（複数選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 適した業務がない	29	17.5
2. 条件に合う人が見つからない	23	13.9
3. 定着が難しい	16	9.6
4. 社内で指導・サポートする体制が整っていない	39	23.5
5. 従業員の間で、障がいのある方とともに働くことへの理解が進んでいない	20	12.0
6. 事務所等のバリアフリー化が進んでいない	16	9.6
7. 制度や助成金が複雑でわかりにくい	5	3.0
8. 特になし	13	7.8
9. その他	5	3.0
（その他の内容） 業務内容への理解が乏しい・管理者の負担が大きい・会社付近に公共交通機関の停留所がなく通勤手段が限られている・法定雇用率の今後の上昇・障がいの種類によっては行える業務が制限されてしまうため雇用できない場合がある		
合計	166	100.0

問13 新規雇用にあたり、必要と思われる支援（複数選択）

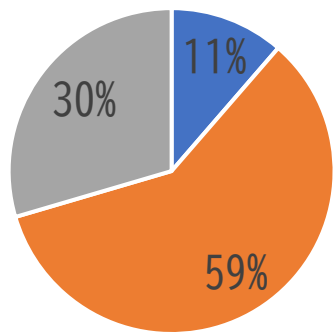
	回答数（社）	割合（％）
1. 障がい特性に適した業務切り出しや職場定着に関する企業向け相談窓口	19	21.6
2. 障がい特性への理解を深める企業向け研修の実施（講師の派遣など）	10	11.4
3. 障がいのある方と企業とのマッチング支援	29	33.0
4. 制度や助成金に関する情報提供	15	17.0
5. 特になし	11	12.5
6. その他	4	4.5
（その他の内容） ケアマネなどのサポート・業務に必要な能力・雇用に対する支援金・事業所のバリアフリー化への費用補助		
合計	88	100.0

3 権利擁護について

次の言葉を知っているか（1つ選択）

問14 障害者差別解消法

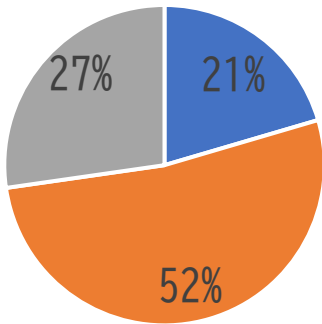
	回答数（社）	割合（％）
1. 内容を知っている	10	11.4
2. 聞いたことはある	52	59.1
3. 知らない	26	29.5
合計	88	100.0



- 1. 内容を知っている
- 2. 聞いたことはある
- 3. 知らない

問15 合理的配慮の提供

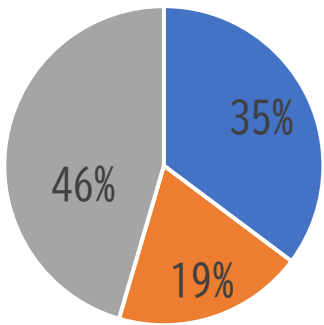
	回答数（社）	割合（％）
1. 内容を知っている	18	20.5
2. 聞いたことはある	46	52.3
3. 知らない	24	27.3
合計	88	100.0



- 1. 内容を知っている
- 2. 聞いたことはある
- 3. 知らない

問16 これまで合理的配慮を提供したことがあるか（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. ある	31	35.2
2. ない	17	19.3
3. 把握していない	40	45.5
合計	88	100.0



- 1. ある
- 2. ない
- 3. 把握していない

3 権利擁護について

問17 提供したことの合理的配慮の内容（複数選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 手話や筆談を用いるなど、コミュニケーション面での配慮	10	18.5
2. 待ち時間・順番を繰り上げるなどの配慮	5	9.3
3. 書類記入や説明のサポート（代筆や代行）	11	20.4
4. 段差・移動動線への配慮 （バリアフリー化や、職員による人的補助）	8	14.8
5. よりわかりやすい案内やマニュアルの作成 （文字の拡大、点字、音声案内など）	11	20.4
6. その他	9	16.7
（その他の内容） 時短勤務・一般社員以上の声かけ・相談時間の提供・作業内容（部署）の異動・長時間の立ち仕事にならないように椅子に座れるような配慮・特性に合わせた業務を与えることやフォロー面談を通じて本人の要望の汲み取りなど・作業内容の軽減・勤務時間等条件の配慮・業務遂行時のフォロー等・仕事の切り分け		
合計	54	100.0

問18 合理的配慮の提供にあたり、課題と感ずること（複数選択）

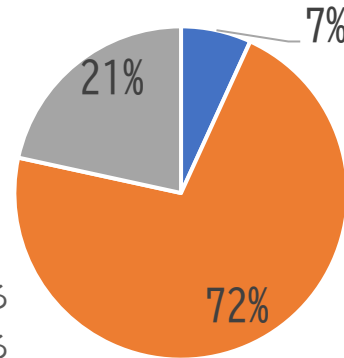
	回答数（社）	割合（％）
1. どこまで対応すべきか判断が難しい	42	26.4
2. 適切な対応方法がわからない	27	17.0
3. 対応する人材・時間が不足している	32	20.1
4. コスト負担が大きい	14	8.8
5. 必要とする側と提供する側との間で、合理的配慮の内容が共有しづらい（具体的な配慮の内容のイメージが一致しないなどにより、十分な提供につながらない）	31	19.5
6. 特になし	13	8.2
7. その他	0	0.0
合計	159	100.0

4 バリアフリーの状況について

問19 「福井県福祉のまちづくり条例」を知っているか（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 内容を知っている	6	6.8
2. 聞いたことはある	63	71.6
3. 知らない	19	21.6
合計	88	100.0

- 1. 内容を知っている
- 2. 聞いたことはある
- 3. 知らない



問21 バリアフリー化にあたっての課題（複数選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 費用がかかる	59	33.3
2. スペースが確保できない	37	20.9
3. バリアフリーの基準となる内容がわからない	7	4.0
4. 工事や設備変更が難しい	44	24.9
5. 複数ある整備内容のうち優先順位がわからない	15	8.5
6. 特にない	15	8.5
7. その他	0	0.0
合計	177	100.0

問20 バリアフリー化の状況（複数選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 出入口に段差がない仕様・スロープを設置している	80	42.6
2. 駐車場に障がい者用スペースがある	13	6.9
3. 多目的トイレがある	22	11.7
4. 大人も使用できるユニバーサルシートがある	1	0.5
5. 車いすの移動に配慮した廊下・通路の幅となっている	15	8.0
6. 点字ブロック等の誘導設備がある	4	2.1
7. 通常より大きめに拡大した文字・配色に配慮した読みやすい案内表示にしている	3	1.6
8. 音声案内装置（シグナルエイド）を設置している	1	0.5
9. 特にない	47	25.0
10. その他	2	1.1
（その他の内容） トイレや階段の手すり設置・デスクの配置・特性に配慮した仕事用の椅子		
合計	188	100.0

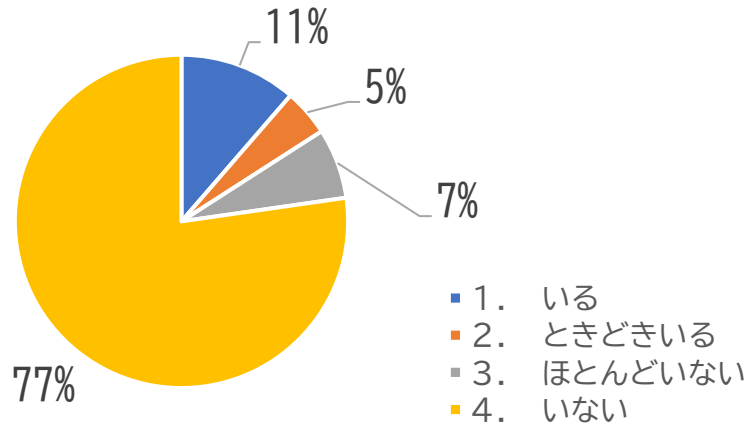
問22 今後のバリアフリー化の予定（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. すでにバリアフリー化が完了している	6	6.8
2. 現在、計画的に進めている	1	1.1
3. 隨時できることがあれば進めたい	42	47.7
4. 進める予定はない	39	44.3
合計	88	100.0

6 手話言語・情報コミュニケーションについて

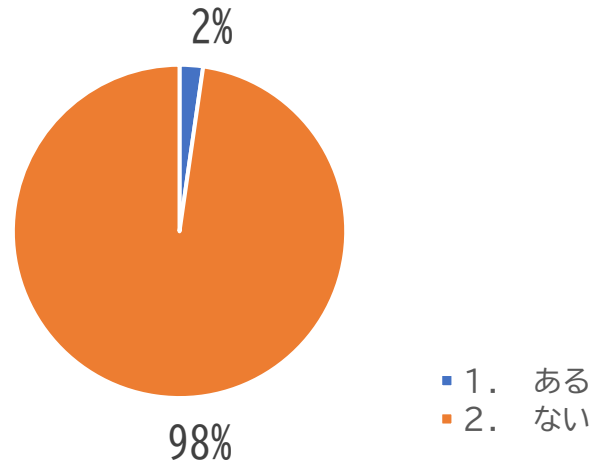
問27 コミュニケーションに配慮が必要な方（従業員やお客様など）はいるか（1つ選択）

	回答数（社）	割合（%）
1. いる	10	11.4
2. ときどきいる	4	4.5
3. ほとんどいない	6	6.8
4. いない	68	77.3
合計	88	100.0



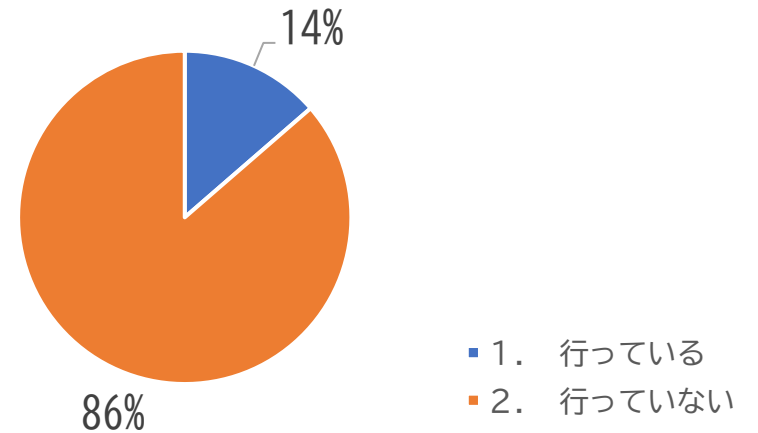
問28 手話を必要とする場合に対応できる体制・人材はあるか（1つ選択）

	回答数（社）	割合（%）
1. ある	2	2.3
2. ない	86	97.7
合計	88	100.0



問29 従業員や職員に、社内研修や啓発を行っているか（1つ選択）

	回答数（社）	割合（%）
1. 行っている	12	13.6
2. 行っていない	76	86.4
合計	88	100.0



6 手話言語・情報コミュニケーションについて

問30 事業所や店舗等で、円滑なコミュニケーションができるよう配慮した取組を行っているか（複数選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 音声による案内	2	2.1
2. 通常より大きめの文字や認識しやすい配色など、読みやすい表示	13	13.7
3. ピクトグラム等の視覚的支援	3	3.2
4. 手話・要約筆記（字幕）による対応	6	6.3
5. 配慮したいがどうしていいかわからない	36	37.9
6. 配慮する予定はない	30	31.6
7. その他	5	5.3
（その他の内容） 関連する団体へ廃棄予定品の寄附をしている・大きい声で話す・マイクやスピーカーの使用・筆談用メモ・必要が出たときにつど検討・1 on 1の実施		
合計	95	100.0

問31 今後、手話への理解が深まり、障がいのある方との多様なコミュニケーション手段が普及していくために、どんな取組や支援が効果的か（複数選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 具体的なサポート方法を知るための、接客マニュアルや取組例などの紹介・情報提供	47	29.4
2. 社内研修会の開催支援（講師の派遣）	36	22.5
3. 手話通訳士の派遣や養成支援	28	17.5
4. 支援に要するコストの削減を目的とした、支援ツール（筆談ボードなど）の貸与・配付	38	23.8
5. 多様なコミュニケーション手段の確保に積極的に取り組む企業・事業者の表彰	7	4.4
6. その他	4	2.5
（その他の内容） 関連する団体へ廃棄予定品の寄附をしている・大きい声で話す・マイクやスピーカーの使用・筆談用メモ・必要が出たときにつど検討・1 on 1の実施		
合計	160	100.0

※問32 自社独自の取組例の紹介は、回答なし

障がい福祉サービス事業所アンケートの結果

- 1 事業所の情報について ※事業所名・担当者名のため割愛
- 2 障がい福祉施策について
- 3 施設等からの地域移行について
- 4 施設の運営等の状況について

2 障がい福祉施策について

問1 相談支援体制の充実のため、最も重要と思う施策
(複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. 相談支援専門員の資質向上	21	33.9
2. 基幹相談支援センター等における相談支援の機能強化	5	8.1
3. 地域における相談支援の充実	16	25.8
4. 相談支援事業所の増加、相談支援専門員の増員	12	19.4
5. 自立支援協議会の活性化	2	3.2
6. 市相談窓口の充実	4	6.5
7. その他	2	3.2
(その他の内容) 利用者数や利用時間の制限		
合計	62	100.0

問2 問1で選択した施策についての具体的な取組
(自由記載・抜粋)

障がいを持って困っている人たちが気軽に相談できる窓口をもっと増やしたら良いと思う

地域の主任相談支援専門員を中心とした相談支援専門員の資質向上に向けた取り組みを行ってほしい。主任相談支援専門員としての意識をもって研鑽されている方々もおられるので、その方々を中心に研修形態を構築していくことで、主任相談支援専門員全体の意識向上にもつながっていくのではないのでしょうか。

相談支援専門員だけではなく、基幹だけではなく、地域全体で地域に住んでいる人たちを支え合える環境を整えられるようなこと。自分が受け持っている利用者が医療面で困った時に、医療に強い人に相談できる繋がりがあることによって、いろんな特性の人をみんなで支えられるようになると思う。
横のつながりを作ったり、異分野交流できたりするような取り組みが充実するといいなと思う。

出来る相談員、やらない相談員、知らない相談員というのを無くしたい。質を一定にして均一したサービスに取り組みたい。

研修の内容の質の向上。理由は、相談支援専門員はソーシャルワーカーであると謳っている。そうであるならば対人援助職としての知識や理念、スキルの向上は避けて通れない。また、ソーシャルワーカーであるとするならば、障害福祉サービスをケアマネジメントの技法に入れるだけではなく、基本相談があるように地域の社会資源の開発にも力を入れるべき役割であると考え。また、意思決定支援がクローズアップされているが、SWであるとすれば、一番大切にしなければならない視点であり責務である。しかし、この意思決定支援の本質を理解することは難しい。研修に県外などから講師を呼ぶなど質の向上が必要だと思う。

2 障がい福祉施策について

問3 障がい福祉サービスの充実のため、最も重要と思う施策
(複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. 地域での居住支援の機能強化	5	8.1
2. 障がい児支援の充実	10	16.1
3. 訪問系サービスの充実	5	8.1
4. 日中活動系サービスの充実	0	0.0
5. 居住系サービスの充実	4	6.5
6. 市相談窓口の充実	6	9.7
7. 相談支援体制の充実	7	11.3
8. 高齢の障がいのある人への生活支援	5	8.1
9. 医療的ケア児者への支援	2	3.2
10. (利用者への) 各種年金・手当等の支給による経済的支援	4	6.5
11. サービスに関する周知と理解促進	11	17.7
12. その他	3	4.8
(その他の内容) 障がいの有無に関係なく地域で一緒に生活できるようなサービスの充実・短期入所等のサービスの充実		
合計	62	100.0

問4 問3で選択した施策についての具体的な取組

(自由記載・抜粋)

障がい児支援の充実は量的な充実ではなく、インクルージョンを考えた支援を行っていく中で、地域生活を見据えた支援や社会生活を見据えた支援など支援の内容の充実につなげることで今ささやかれている増大している支援費の抑制や必要な支援の精査などにつながっていけるのではないのでしょうか。

地域の保育園や小学校で隣近所のお友だちと一緒に生活できることが当たり前に選択できるようになるために、対象園や学校へのスタッフ増員（看護師も含め）しやすい環境。児童館などへの利用も含めて、途切れない支援。サポートがある人が暮らすその地域が、その人の成長や経過とともに必然と環境が整っていくようなこと。

まずは知ってもらい関心をよせて欲しい。現存の事業所の運営しやすい環境整備の課題のひとつだと思う。
そうすれば、介護予防的な事業に似て互いの立場を理解できやすくなる。そんな社会が望ましい。

どの事業も大事なので、引き続き取り組みはしていただきたいと思います。
ただ、どの分野にしても言えることは、人材不足と人材確保が課題なので、充足させるためにはまずは人の確保・定着・育成が必要だと思います。

選択支援サービスができたことで就労サービスの周知ができてくると思われるが、B型はどこも同じといった誤解を聞いたことがあるので、より利用者に適したサービスが提供できるような仕組みになってほしい。

2 障がい福祉施策について

問5 保健・医療サービスの充実のため、最も重要と思う施策
(複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. 母子保健事業の推進	8	12.9
2. 健康づくりと疾病の悪化防止の推進	12	19.4
3. 精神疾患に関する支援の充実	26	41.9
4. 認知症対策の総合的推進	4	6.5
5. 在宅ケアの充実	7	11.3
6. 医療費の助成	4	6.5
7. その他	1	1.6
(その他の内容) 治療を家族単位で終わらせない支援		
合計	62	100.0

問6 問5で選択した施策についての具体的な取組
(自由記載・抜粋)

連携先の医療機関も主治医、ワーカー等の個人的な見解に左右されている。医療と福祉の連携が良好にできる体制の構築。

精神疾患の方はなかなか、理解や地域に出て安心して生活が送れる状況には至ってないと感じるので、できれば支援の充実に力を入れていただきたい。また、精神の方は医療との連携は必要不可欠なので、より連携が促進される仕組みができてくることを望みます。あと、地域住民の方や企業の方も含めた、理解と受け入れと交流ができる取り組みを福井市もバックアップして今まで以上に増えていくと良い。

医療機関と福祉を繋ぐ関係体制の強化。主治医・医療機関との情報共有。医療と日中活動・生活支援の橋渡し（医療と福祉のつなぎ役）。早期対応・継続支援・チーム支援

精神疾患のある人の社会的孤立を予防するためには、偏見や差別の解消に加え、保健・医療・福祉が連携した地域での伴走支援が重要であると考えます。そのため、地域住民の理解促進と、早い段階で相談や訪問支援につながる体制づくりが必要であると考えます。具体的な取組としては、市町村の相談窓口を利用しやすくすること、保健・医療・福祉の関係機関が連携しやすい体制をつくること、ACTのような多職種によるアウトリーチ支援も含め、調子が悪くなった際に地域で早めに気づき、自宅で困ったときに早めに訪問や支援につなげられる仕組みを整えること、長期入院者の地域移行支援、入院者訪問支援事業の実施、人材育成の推進などが大切であると考えます。

2 障がい福祉施策について

問7 発達障がい児者支援の充実のため、最も重要と思う施策
(複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. 発達障がい児者の支援体制の強化	16	25.8
2. 早期発見・早期療育体制の充実	8	12.9
3. 特性に応じた保育の充実	3	4.8
4. 学校教育における支援の推進	9	14.5
5. 発達障がい者の就労の促進	3	4.8
6. 発達障がいの理解促進	14	22.6
7. 発達障がい児者を支える人材育成	9	14.5
8. その他	0	0.0
合計	62	100.0

問8 問7で選択した施策についての具体的な取組

(自由記載・抜粋)

発達障がいに対しての理解、支援の方法を具体的に研修できたらいいと思う

幼保小中高大学等での交流義務化。障がいを持った人と関わりことなく大人になる人が多い。知らなければ理解しようとしめない。理解者が増えなければ良い社会にはならない。

職員に対する研修の充実（特性が多岐に渡るため 表面的な理解だけでは 支援できない）

将来を見据えた支援を行える人材育成を考えていきたい。働く、生活をする、税金を払うなど、社会で生活をしていくための当たり前を一緒に感じていける社会を作っていけないといけないと考える。

企業への説明会などを開いたり、相談窓口を用意して企業の間口を広げてみる

家族が不安に感じた時に、気軽に受診したり相談したりしやすい場所がもっとあるとよいと思います。

早めにいろんな分野の人が専門性を持って関わることで、将来の自立支援に向けた動きや対応もできるため、行政、保育、病院、施設などすぐに繋がって情報共有や連携できる体制づくりをお願いします。

発達障がい児者支援では、早期支援、関係機関連携、学校から就労への切れ目ない支援に加え、本人が十分な説明と選択肢のもとで進路を選ぶ支援が大切だと思います。

2 障がい福祉施策について

問9 雇用・就労の促進のため、最も重要と思う施策 (複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. 就労支援体制の整備	7	11.3
2. 就労関係機関との連携強化	11	17.7
3. 就労系サービスの利用促進	12	19.4
4. 障がい者雇用の理解促進	6	9.7
5. 雇用・就労に関する情報提供の充実	10	16.1
6. 障がい者就労からの一般就労の促進	2	3.2
7. 公的機関での障がい者雇用の促進	4	6.5
8. 障がい者雇用を推進する企業への支援	7	11.3
9. 障がい者就労施設等からの優先調達の推進	2	3.2
10. その他	1	1.6
(その他の内容) 分離している就労支援事業所のカスタマイズ		
合計	62	100.0

問10 問9で選択した施策についての具体的な取組

(自由記載・抜粋)

雇用する側・就労する側でお互いの意見を交換する機会を持ち、環境や特性について調整をしていく。

雇用受け入れ側・一緒に働く方の理解が重要。

就労系の事業所が施設内就労先などから障がいを持った方との関わり方や雇うメリットを伝えたりアフターケアなどを周知に勤めていきたいと考えております。

雇用する会社全体への合理的配慮や障害特性の理解促進

雇用を行う前に段階を踏むことはとても大事だと思う。
雇用定着をさせるため、就労系サービス積極的に使いステップアップが出来ると良い。
各就労系事業所も増えていると思われる。利用者の特性を踏まえ各事業所に平等に利用者が散らばり、横のつながりを深め、事業所間で利用者が色々体験や経験など出来ると幅も広がると思える。

人で不足が進むなか、障がいを持たれた方が活躍できる仕事を見つけていけるように、企業開拓やマッチングできる専門支援者が身近に居てくれると良い 就労選択支援の使いやすさ

本人の希望を尊重しつつ、適性や体力、生活面を踏まえて現実的な進路選択ができるよう、十分な説明や選択肢の提示を行うことが重要であると考えます。そのうえで、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、福祉事業所、学校、企業が連携し、学校から就労への移行期に支援が途切れないようにすること、就職後も職場定着支援や企業との調整を丁寧に行い、本人が安心して働き続けられるよう支える体制を整えることが必要であると考えます。

2 障がい福祉施策について

問11 日中活動の充実のため、最も重要と思う施策

(複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. 個別相談や日常生活訓練などを通じた地域での活動の機会の拡大	29	46.8
2. 障がい児の保育・教育活動の充実	8	12.9
3. 放課後児童の受入などを通じた日中活動の機会の拡大	9	14.5
4. 地域活動に関する情報提供	15	24.2
5. その他	1	1.6
合計	62	100.0

問12 問11で選択した施策についての具体的な取組

(自由記載・抜粋)

気軽に立ち寄れる相談ができる場所や簡単な体験ができる場所の整備

障がい特性を持ち、地域の学校で過ごしにくい子どもたちへの日中の居場所を提供し、その中で学力や生活の力を身につけるプログラムの提供

福祉が身近にある人しか情報が流れていないのではないかと？日中活動を充実させるため、地域へ情報誌や告知、イベントなどを行い周知してもらうのも良いと感じる。

災害訓練や社会奉仕などの地域活動へ参加していく

個別相談を通じて本人に合った活動先や支援内容を丁寧に整理すること、日常生活訓練の中で買い物や交通機関の利用、金銭管理、生活リズムづくりなど、地域生活に直結する練習を行うこと、地域活動支援センター等で創作活動や交流活動、地域イベントへの参加機会を増やすこと、日中一時支援により短時間利用や送迎も含めた居場所と活動機会を確保することなどが大切であると考えます。あわせて、情報提供だけでなく、利用しやすい送迎や見守り、地域の実情に応じた柔軟な支援を進めることで、地域生活の維持や社会参加につながる仕組みを充実させることが必要であると考えます。

2 障がい福祉施策について

問13 社会参加の促進のため、最も重要と思う施策

(複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. 障がい者スポーツの普及・推進	4	6.5
2. 文化・芸術活動への支援	4	6.5
3. 障がい者団体等への活動支援	13	21.0
4. 手話通訳者等の地域活動への派遣	0	0.0
5. 障がい者に関わるボランティアの育成やボランティア活動の推進	12	19.4
6. 手話通訳や要約筆記など、障がい特性に応じた支援者の養成・人材育成	1	1.6
7. 外出支援の充実	27	43.5
8. その他	1	1.6
(その他の内容) 障がいに対する理解促進		
合計	62	100.0

問14 問13で選択した施策についての具体的な取組

(自由記載・抜粋)

卓球バレーの大会を通して、社会参加、余暇活動に大いにつながっていると実感している。今後も、スポーツを通して、社会とのつながり、集団での協同活動などの機会があることで、社会的孤立感の解消にもつなげていくことができるのではないのでしょうか。

まず、その人の興味関心を広げるために、いろいろなことに触れる機会が増えたらいいと思う。

団体活動を通して今まで障がいと関る機会がなかった人たちとも交流を持ち、障がい福祉に関心を持ってもらう。

もっと外出支援が充実していれば、社会参加を促進することができると思います。

公共交通機関のバリアフリーなど当事者が外出する上でどういった問題があるのか抽出から解決に繋げていけるような働きかけ。

移動も考慮したまちづくり

移動支援を利用し、色々な方に出会い、地域の資源にふれ視野を広げていくこと。

当事業所では、移動支援などいろいろなサービスを利用して社会参加をされている方は少なく、外出をするにも家族の方の協力が必要なため事業所と自宅の往復のみで、外出をされている方は少数です。スポーツや文化・芸術活動等の社会参加へのハードルはまだまだ高いと感じている方が多いように感じます。

2 障がい福祉施策について

問15 障がいに対する理解の促進のため、最も重要と思う施策
(複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. こどもの頃からの障がいについて理解を深める福祉教育の推進	30	48.4
2. 障がい福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流の機会の促進	12	19.4
3. 公的機関の窓口等における啓発や配慮	2	3.2
4. 障がいのある方が自由に外出できるまちづくりの推進	15	24.2
5. 障がいの有無にかかわらず交流できるスポーツや文化・芸術活動の促進	3	4.8
6. その他	0	0.0
合計	62	100.0

問16 問15で選択した施策についての具体的な取組
(自由記載・抜粋)

障害者と共生することが当たり前の世の中や社会になるよう、小さい頃からの教育は重要であり、大人になってからも偏見意識の壁が取り払われるような交流やイベントがあればいいと思う

自分が小さい頃は障がいを持つことについて学ぶ機会がなかった。今は学校訪問などして一緒に触れあう事で地域の方との交流が生まれたり、理解してもらえる機会が増えてきているので、これを続けていってほしい。

実際に小学生が交流で事業所に毎年来ますが、直接関わることで理解はかなり深まると思います。

今の子供たちへ福祉教育は大事だと思う。
小学校へ福祉職員が向かい、授業の一環として年に1〜2回ほど学ぶ機会などがあると良い。
その時に、実際交流しても良いと言ってくれる利用者も一緒に参加できると、地域とのつながりや社会参加の促進になるのではないかと思います。

歩道の整備（学生や高齢者にもやさしく活用の幅がある）

誰でも参加しやすい『交流型スポーツ活動』の実施。自然な交流を通じて、障がい理解を深める。共に過ごす経験の蓄積。言葉以外のコミュニケーションを大切にする

子どものころから自然に理解を深められる環境を整えるためには、学校教育の中で障害や合理的配慮について学ぶ機会を設けること、障害のある子どもとない子どもが授業や行事、地域活動の中で日常的に交流できる場を増やすこと、当事者や家族、支援者の講話や体験学習を通じて、障害を「知識」だけでなく「身近なこと」として学べるようにすること、教職員への研修を進めること、さらに学校だけで終わらせず、地域のスポーツ、文化活動、ボランティア活動にも自然に一緒に参加できる機会を増やすことなどが大切であると考えます。

2 障がい福祉施策について

問17 バリアフリーの推進のため、最も重要と思う施策

(複数選択)

	回答数	割合 (%)
1. 住宅（個人宅や集合住宅）のバリアフリー化	3	4.8
2. 公共施設のバリアフリー化	11	17.7
3. 公共交通事業者への支援	11	17.7
4. 安心して歩きやすい歩行空間の整備	9	14.5
5. 福井県まちづくり条例や法令に基づく指導	4	6.5
6. 情報バリアフリーの推進	3	4.8
7. 心のバリアフリーの推進	21	33.9
8. その他	0	0.0
合計	62	100.0

問18 問17で選択した施策についての具体的な取組

(自由記載・抜粋)

建物などのバリアフリーも必須ではあると思うが、心のバリアフリーから整備した方が皆さんの考えも入りやすいと思う

歩行時の階段、段差で転倒が多々あるため道路整備

利用できる選択肢が増えるため、公共施設のバリアフリー化は大切だと思います。

段差解消、平坦化（歩道や公共施設周辺の段差、ガタつき、ひび割れ箇所の補修）安全性を高める歩行空間の整備、特定の人だけでなく『誰にとっても』安心

子どもころから障害理解を深める学習や交流の機会を学校教育の中で計画的に設けること、地域住民や公的機関の職員、交通・接客に関わる人への研修や体験学習を進めること、障害のある人への配慮や声かけの方法を分かりやすく周知すること、地域行事やスポーツ・文化活動の場で障害のある人となない人が自然に関われる機会を増やすことなどが重要であると考えます。こころのバリアフリーは、施設整備だけでなく、必要な配慮や支援の内容を地域の中で共有し、理解し、配慮が広がることで進んでいくものと考えます。日常の中で自然に理解や支え合いが広がる環境づくりを進めることが大切であると考えます。

2 障がい福祉施策について

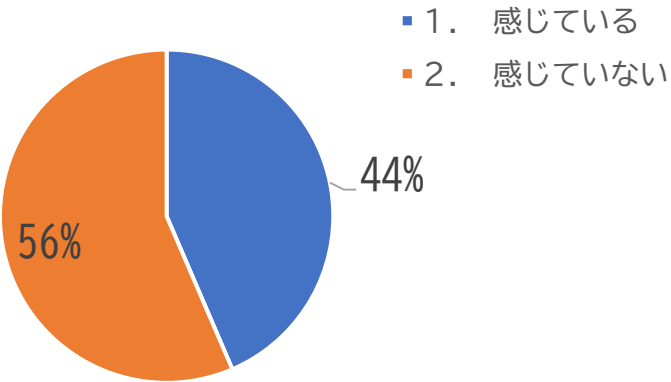
問19 共生社会の実現に向けて、どのような取組が必要か（複数選択）

	回答数	割合（％）
1. インクルーシブ教育（障がいの有無に関わらず、誰もが地域の学校で学べる教育）の推進	20	14.8
2. こどもの頃から障がいについての理解を深めること	34	25.2
3. 障がいの有無に関わらず参加できる行事・イベント（スポーツや文化的活動）の開催	16	11.9
4. 障がいのある方の芸術文化活動への支援と発表の機会の充実	4	3.0
5. ボランティア活動の促進	5	3.7
6. 障がいのある方の一般企業への就労の推進	9	6.7
7. 障がいを理解するための広報・啓発活動	5	3.7
8. 障がいに関する講演会や学習会の開催	0	0.0
9. 障がいのある方が自由に外出できるまちづくりの推進	13	9.6
10. 障がいのある方が地域で暮らすための取組	22	16.3
11. 福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流を進めること	7	5.2
12. 特になし	0	0.0
13. その他	1	0.7
（その他の内容） 過剰な福祉サービス提供事業所の削減		
合計	135	100.0

3 施設等からの地域移行

問20 施設等からの地域移行は進んでいると感じるか（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 感じている	27	43.5
2. 感じていない	35	56.5
合計	62	100.0



問20-1 施設等からの地域移行が進まない、最も大きな原因は何だと考えるか（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 地域の受け皿が不足しているため	14	40.0
2. 家族などの反対があるため	4	11.4
3. 施設等（移行元）での、地域移行することへの支援体制が不十分なため	5	14.3
4. 地域（移行先）の見守り体制などの支援体制が不十分なため	4	11.4
5. 本人からのニーズがないため	3	8.6
6. その他	5	14.3
（その他の内容）未記入		
合計	35	100.0

問21 地域移行が進むために、必要と思われる取組は次のうちどれか（3つまで選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 日中や夜間支援を行うグループホームの増設	19	13.9
2. 一般住宅への入居支援の充実	6	4.4
3. 障がい福祉サービスの充実（訪問介護など）	28	20.4
4. 24時間ケア（見守り）が行える体制の整備	22	16.1
5. 継続的にかかわる人材（寄り添う人）の確保	27	19.7
6. 地域で気軽に相談できる体制（機関）づくり	26	19.0
7. 身近な地域における医療的ケアの提供体制の充実	6	4.4
8. その他	3	2.2
（その他の内容） 地域を知る活動・病院や施設の利用期限を明確に設けること		
合計	137	100.0

3 施設等からの地域移行

問22「親亡き後」問題の不安解消のために必要と思われる施策（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 相談先・サポート体制の強化	44	30.1
2. 財産（預貯金、不動産など）の管理	22	15.1
3. 生活費や医療費などの経済的な支援	22	15.1
4. 住む場所の確保	26	17.8
5. 専門的人材の確保・養成	17	11.6
6. 社会参加の場の確保、日中活動の場の確保	15	10.3
7. その他	0	0.0
合計	146	100.0

4 施設の運営等の状況について

問23 空気が少ない（余裕がない）と感じるサービス（複数選択）

	回答数	割合(%)
1 居宅介護(ホームヘルプ)	20	9.7
2 重度訪問介護	15	7.3
3 同行援護	5	2.4
4 行動援護	7	3.4
5 生活介護	10	4.9
6 療養介護	3	1.5
7 短期入所(ショートステイ)	28	13.6
8 自立生活援助	1	0.5
9 自立訓練(機能訓練・生活訓練)	4	1.9
10 就労移行支援	0	0.0
11 就労継続支援A型	2	1.0
12 就労継続支援B型	1	0.5
13 就労定着支援	1	0.5
14 就労選択支援	0	0.0
15 施設入所支援	10	4.9
16 共同生活援助(グループホーム)	18	8.7
17 児童発達支援	2	1.0
18 居宅訪問型児童発達支援	2	1.0
19 保育所等訪問支援	3	1.5
20 放課後等デイサービス	12	5.8
21 地域活動支援センター	8	3.9
22 移動支援事業	10	4.9
23 日中一時支援事業	5	2.4
24 訪問入浴介護サービス事業	9	4.4
25 計画相談支援・障がい児童相談支援	12	5.8
26 一般相談支援	7	3.4
27 意思疎通支援(手話・要約筆記など)	9	4.4
28 該当する福祉サービスがない	1	0.5
29 その他	1	0.5
(その他の内容) 未記入		
合計	206	100.0

問24 空気が多い（余裕がある）と感じるサービス（複数選択）

	回答数	割合(%)
1 居宅介護(ホームヘルプ)	2	1.9
2 重度訪問介護	0	0.0
3 同行援護	0	0.0
4 行動援護	0	0.0
5 生活介護	5	4.7
6 療養介護	0	0.0
7 短期入所(ショートステイ)	1	0.9
8 自立生活援助	1	0.9
9 自立訓練(機能訓練・生活訓練)	4	3.8
10 就労移行支援	4	3.8
11 就労継続支援A型	11	10.4
12 就労継続支援B型	25	23.6
13 就労定着支援	5	4.7
14 就労選択支援	3	2.8
15 施設入所支援	0	0.0
16 共同生活援助(グループホーム)	3	2.8
17 児童発達支援	4	3.8
18 居宅訪問型児童発達支援	0	0.0
19 保育所等訪問支援	0	0.0
20 放課後等デイサービス	8	7.5
21 地域活動支援センター	3	2.8
22 移動支援事業	1	0.9
23 日中一時支援事業	2	1.9
24 訪問入浴介護サービス事業	0	0.0
25 計画相談支援・障がい児童相談支援	2	1.9
26 一般相談支援	0	0.0
27 意思疎通支援(手話・要約筆記など)	0	0.0
28 該当する福祉サービスがない	19	17.9
29 その他	3	2.8
(その他の内容) 未記入		
合計	106	100.0

4 施設の運営等の状況について

問25 市の指定する福祉避難所としての登録（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 登録している	20	32.3
2. 登録していない	42	67.7
合計	62	100.0

問25-1 登録していない場合、今後の登録予定（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. ある	0	0.0
2. ない	42	100.0
合計	42	100.0

問25-2 登録予定がない場合、その理由（1つ選択）

	回答数	割合（％）
1. 受け入れスペースがない、又は不足している	19	26.0
2. 人員不足など受入体制が整っていない	27	37.0
3. 避難所として対応できるか不安がある	23	31.5
4. その他	4	5.5
（その他の内容） 近くに指定福祉避難所があるため・通所事業所のため夜間体制が整っていないため・数年後に移転の可能性があるため		
合計	73	100.0

問26 今後の新築、改築、改修等の予定（複数選択）
※事業所の特定を避けるため結果は割愛

問27 人材確保が難しいと感じているか（1つ選択）

	回答数	割合（％）
1. 感じている	51	82.3
2. 感じていない	11	17.7
合計	62	100.0

問27-1 感じている場合、その主な理由（1つ選択）

	回答数（社）	割合（％）
1. 低賃金や身体的負担が大きいなど、職種に対するイメージが悪い	6	11.8
2. 求人しても応募が少ない	24	47.1
3. 雇用しても長続きしない	6	11.8
4. 経営が厳しく、職員を増員する余裕がない	5	9.8
5. 経験のある職員が集まらず、質の高いサービスの提供が難しい	7	13.7
6. その他	3	5.9
（その他の内容） もともと興味関心を持っている人が少ない分野であるため・当社独自のハードルを設けておりクリアする方がなかなかいない・支援する側の高齢化が進んでいるため		
合計	51	100.0

4 施設の運営等の状況について

問28 人材確保のために効果的だと考える取組（1つ選択）

	回答数	割合（％）
1. 報酬の増額	39	62.9
2. 職員のスキル向上のための研修の充実	12	19.4
3. 外国人等、多様な人材の発掘	2	3.2
4. 教育現場等における出前講座や実習の開催（職業紹介・体験等）	3	4.8
5. ICT等のテクノロジーの活用（IT機器、介護ロボットの導入など）	3	4.8
6. その他 具体的に記入	3	4.8
（その他の内容） 勤務時間の多様性・情報発信やインターンなどの見学研修（福祉留学）の機会を幅広く設けている・職員間のコミュニケーションの充実		
合計	62	100.0

問29 サービスの質の向上のために最も重要だと考える取組（1つ選択）

	回答数	割合（％）
1. 研修の充実 ⇒ 問29-1 へ	15	24.2
2. 運営指導の徹底	10	16.1
3. 事業所間の連携	34	54.8
4. その他	3	4.8
（その他の内容） 福祉の向上を共に考える気持ち・サービスの目的について職員が同じ方向を見ること・人的資源の増加と効率化		
合計	62	100.0

問29 施設で受け入れてみたいと思うボランティア（1つ選択）

	回答数	割合（％）
1. 行事・イベントなどの手伝い	29	21.2
2. 清掃や軽作業（洗濯物の整理、食事の準備など）の手伝い	17	12.4
3. 遊びや趣味の活動のサポート	19	13.9
4. 外出の介助	15	10.9
5. 募金活動の手伝い	6	4.4
6. 日常生活の支援（買い物代行、ゴミ出しなど）	6	4.4
7. 学習支援	9	6.6
8. 専門的な支援（点訳・手話通訳など）	8	5.8
9. スポーツ大会や練習などの手伝い	7	5.1
10. 話し相手（傾聴）	11	8.0
11. 受け入れたいとは思わない	9	6.6
12. その他	1	0.7
（その他の内容）雪かき		
合計	137	100.0